

# DISCUSSION PAPER SERIES

地域産業の実態解明を目的としたデータベース作成とその方法論  
—経年の統計的資料・地図情報を用いた歴史的把握—

南 慎二郎

2019年5月

RPSPP Discussion Paper No.36

**RPSPP**

RITSUMEIKAN: POLICY SCIENCE & PUBLIC POLICY

Policy Science Association  
Ritsumeikan University  
2-150 Iwakura-cho, Ibaraki,  
Osaka 567-8570 Japan

# 地域産業の実態解明を目的としたデータベース作成とその方法論 -経年の統計的資料・地図情報を用いた歴史的把握-

南 慎二郎

1. はじめに
2. 特定産業に収められた地域研究データベースの作成
  2. 1. アスベスト災害の実態解明における困難性
  2. 2. 一般的情報の収集による実態への接近方法
3. 大阪泉南地域のアスベスト産業の事例における実践
  3. 1. 先行的な調査や既存資料についての確認と整理
  3. 2. データベース化の素材とフォーマットについて
  3. 3. 統一的データ整理による発見や実証
4. 結びにかえて：各時点のデータ類が残されることの意義

## 1. はじめに

本ディスカッションペーパーは、大阪泉南地域のアスベスト産業の調査研究を目的として行った、過去の地域産業の実態を解明するためのデータベース作成の方法論とそのデータベースの実践的有効性を論じるものである。

本研究では、過去のアスベスト災害事例の検証として、大阪泉南地域のアスベスト産業の地域的・歴史的な実態解明の遂行を進めてきている。この作業過程を通じて得られた知見は、個別事例の実態解明のみならず、断片的な情報を集約することによって、過去のものとして消失しつつある地域の経済・社会の歴史を明確化させて今後の政策的考察の素材とする上での一般性を有する学術的方法論を提示しうるものである。この方法論の提起・考察ならびに本研究課題の事例調査における基礎的なデータに基づく検討へと結びつけるものとして本成果が位置づけられる。

本議論で焦点を当てるのは、過去のものとして消失しつつある地域の経済・社会の歴史の明確化である。わずかな資料や発掘物の断片を集約して実態にせまるのは人文科学での歴史研究では一般的に行われていようが、特に社会科学の場合の歴史研究は、何かしらのまとまった歴史資料や統計資料がそろっていることが、実行可能の前提条件として判断される傾向にあると考えられる。そして、地域経済の研究において対象が地域産業である場合、地域の基幹産業に注目することになるが、この場合は歴史的な記録や統計資料がすでに存在していることが一般的であり、それがまとまった形で存在していない場合やオープンな形で入手できない場合でも、現地調査にて現行の情報入手・整理・収集は容易であるといえる。つまり、一般的な地域産業の研究においては、それに関連する歴史的な資料や情報が存在しているのが当然であり、逆に言えば、消失していく過去の歴史は社会にとって残す必要のない領域に分類されたものと解される。それは研究対象にはなり得ないと判断してもにわかには支障は発生しない。しかし、ある時点において、特定地域の特定産業の実態につい

て注目しなければならない学術的・社会的必要性が高まった場合には、それが消失しつつある過去の歴史であるからという理由で、社会科学の研究は実施しなくていいことにはならない。このことは、地域研究、とりわけ地域産業を主な研究対象とする地域経済学の方法論やパラダイムの再検討を要請するものである（これは別稿にて改めて論じる予定である）。

アスベスト災害は、消失しつつある過去の歴史に接近しなければならない学術的・社会的必要性を提起するものである。そこで本議論では、アスベスト災害から導かれるストック災害問題の研究の困難さや地域に接近する研究の方法論を考察した上で、実践したデータベース作成の内容やその有効性の検証を行っていく。

## 2. 特定産業に収れんした地域研究データベースの作成

### 2. 1. アスベスト災害の実態解明における困難性

アスベストは天然の鉱物繊維として豊富に存在する資源であり、断熱性・耐火性・柔軟性・耐腐食性等の鉱物と繊維の両者の特性を兼ね備えているため、工場等のボイラーといった高熱の設備周りの断熱材やプラント内の配管接続つなぎのパッキン類、自動車や重機のブレーキの摩擦材、建築物の耐火や丈夫さを高めた建材など（これらに加えて船舶があり、船舶は内燃機関と居住区域を兼ね備えているので、複合的かつ全体的にアスベストの使用用途を有する）、特に重化学工業化・都市化が進行する高度経済成長期に需要が高まり、実際に日本や韓国や欧米諸国のその時代に各国で大量に消費された。

その一方で、周知の通りアスベストは人体にとって有害物質であり、粉じん化したアスベストにばく露することで、長期（概して10年以上、ばく露から20～40年後に発症する場合が多いと考えられている）の潜伏期間を経て、肺がん・中皮腫等の特有の重篤な疾患を引き起こす。つまり、人々がアスベストにばく露する場合と量が増える大量消費の時代（高度経済成長期）と、その時のばく露に起因する健康被害が多く顕在化する時代とは、20～40年ないしそれ以上のタイムラグが生じることになる。

過去の歴史や統計資料から帰納的に考察すると、世界の先進各国が高度経済成長もしくは工業化・都市化が高度に進行したのは第二次世界大戦が終了して以降の期間である。日本や欧米諸国では19世紀後半～末にアスベストの産業利用が開始したので100年以上のアスベスト消費の歴史を持つが、実態として特にアスベスト消費量が多かった期間は1950～1980年代である。先進国化では後発の韓国の場合は、先発の経験や技術を活用して1970年代以降の圧縮型の短期間で高度成長を果たしており、1970～1990年代に集約的にアスベストを消費した。そして、いずれの国でも被害の発生はそれ以降、現在まで増加傾向のまま継続している。以上の状況とアスベストによる健康被害の顕在化・深刻化（アスベスト災害禍の状態）のタイムラグを合わせると、高度成長や工業化・都市化の進行が落ち着いてアスベストの需要が減退する時期と、被害の発生・増加が顕著となって深刻なレベルのアスベスト災害が認識され始める時期が概ね一致することになる。このため、アスベスト災害が顕在化したことで、その被害の原因や責任の所在、災害経験の記録と検討を行う必要性が高まるにも関わらず、肝心のアスベスト製品の産業が市場を失って衰退・転廃業する状況となっており、中小企業ほど、事業所や企業組織自体が消滅してしまう可能性が高まることになる。さらに世界の情勢として、現在の主要なアスベスト消費国でもある、アジア地域に多い後発国では、高度成長や工業化・都市化が時代を経るに従ってより短期間で進行する傾向にある

ため、時代を経るごとにアスベスト消費期間と被害発生期間はより乖離していく傾向はますます強まっていくものと考えられる。この調査研究の必要段階ではアスベスト産業が非現行産業となっていやすい一般的傾向により、調査対象にアプローチし難いことがアスベスト産業調査の第一の困難性である。

また、アスベスト自体は工業化・都市化には不可欠な存在として認識されていた故に大量消費がされたのであるが、あくまでアスベスト産業は重化学工業や都市化における建設業に資材や材料を供給する中間財産業であるため、花形的な主要産業ではなく、産業構造における裏方として注目度は低く、産業に関する調査研究や統計記録で取り扱われる比率は相対的に低いものである。アスベストの場合は中間財産業(生産財産業)という特徴から裏方・日陰的な傾向を持つが、他のストック災害の場合でも、例えば廃棄物に由来する土壌汚染では廃棄物処理業は静脈産業であり、いずれも労働災害・公害・環境問題の発生主体ともなりかねない裏方・日陰的存在である。他者に損失をもたらさうる存在は、実際に損失を発生させていないとしても周辺住民・世間・行政から疑いの目で見られてしまうことから、自身の情報公開に慎重にならざるをえず、積極的な資料・統計の記録・編纂は行われにくい。このストック災害に直接関与する活動の一般的傾向としての閉鎖性と過去の記録資料の乏しさが第二の困難性である。

研究を遂行する上での素材を得るためには、現行の実態を直接調査するか、記録資料を調査するかのいずれか若しくは両方が必要である。この両方ともに十分に得ることが困難である場合でも、研究遂行を如何に実行するかが、本考察での克服すべき課題である。

## 2. 2. 一般的情報の収集による実態への接近方法

研究実行に必要な情報や資料がない場合の解決方法は、単純にいえばその研究に即した形で資料をまとめる作業を自らで実行すればいいのであり、独自のデータベース作成によって条件をクリアする方向性が提起しうる。そのためにはデータベースのパーツとなる情報が必要であり、一般的情報の中から探して組み合わせることの実行可能性や開拓可能性が問題となる。

一般的情報の具体的内容に入る前に、そのそれぞれの情報が内包するデータ属性を次元別に整理しておく必要がある。各データ属性が適切にそろっていないければ、そのデータの対象を現象として捉えることはできない。地域産業の場合、その産業に属する企業(中小企業が多い産業なら個人事業主も含まれる)の集合体であるのだから、個々の企業が調査対象の単位となる。そして、その調査対象のもつデータ属性は、地域研究の領域においては必然的に次の3種類のいずれかに該当し、この3種類のデータ属性の三項関係によって認識可能な情報となる。第一に、地域は空間的な概念であるのだから、空間における存在の関係性として**地理的情報**が挙げられる。第二に、地域は過去からの歴史的経緯と現在の行動次第で変化(発展・衰退)するものであり、時間軸上の連続性があるのだから、地理的情報に科学的な意味を持たせるためには**時間的情報**と組み合わせることによる対象の特定化が必要である。ただし、これだけでは対象の存在を特定しただけでその内容は白紙の状態である。そこで第三のデータ属性としてその存在主体個別の内容も必要であり、それは次の通りである。調査対象である企業は存在としては独立のものであり、経営者の意思や従業員の規模、有する資本、生產品、取引関係等の産業内での関係性など、独自の個別情報が一単位ごとに

あるため、これらを可能な限り収集することでようやく地域経済を構成した単位としての企業が具体化されて認識可能になり、地域産業の全体像の把握も可能になる。この第三のデータ属性は**記述的情報**といえる。以上の3つのデータ属性のいずれかを含むか否かが、数多ある一般的情報から取捨選択して収集する際の基準となる。

地理的情報として想定されるのは、その産業がカテゴライズされた形（あるいは名称等から判別可能な形）で住所等の位置情報がリスト化もしくは図形化（地図化）されているものであり、工場年鑑等の企業名簿型の統計資料や企業名・世帯主等の各物件の名称情報を含む住宅地図、業種別で地域単位で掲載（住所も含む）されている電話帳が、基礎的資料に該当する。これらは年毎の間隔など、定期的に更新版が発行されるものであるため、調査対象の産業の活動期間内でこれらの発行期間の重なる版のバックナンバーを可能な限り収集し、それを接続化することで時間的情報を獲得することが可能となる。ここまでは住宅地図や電話帳のような、全国的に各地域単位で継続的に発行されている資料によって接近しうるが、この二種類の資料では記述的情報はほとんど得られない。企業名簿型の統計資料であれば一定の記述的情報が得られるが、これはその地域を管轄する自治体が行政サービスの一環で公表すべき情報として調査・整理・発行しているか、あるいはその産別の団体が産業振興や企業間の連関・親睦を目的として作成・発刊しているかどうかの偶然性に依存する。本研究事例での対象地域を含む大阪府の場合はその行政サービスが取り組まれていたため一定の記述的情報を得ることができたのだが、それでも全期間において年単位で統一の資料とはなっておらず、期間によって掲載内容が変化（具体的には、年を経るごとに掲載内容は簡素化・省略化）している。もし企業名簿型の統計資料がまとまった形でなかったとしても、住宅地図と電話帳による地理的情報と時間的情報の基礎的なデータベースが構築されていれば、そこに断片的な個別具体の特殊な記述的情報を適切に意味づけして組み込むことが可能になる。特殊な記述的情報としてはその産業を含む業界やその産業団体（アスベスト産業の場合は日本石綿協会等）が発行した資料や関係者の個人的な記録・証言などが考えられる。

以上の検討内容を整理すると、特定産業についての地域研究を行うのに際して、第一段階として地理的情報と時間的情報による基礎的なデータベースを構築し、第二段階としてそこに記述的情報を組み込んでいくのが、有意義な実態解明を志向していく上での合理的なプロセスである。もちろん、実際には3つのデータ属性の入手とデータベース化は同時並行的に進むものであるが、このプロセスにおける、地理的情報と時間的情報によって対象化され、その対象を記述的情報によって具体化していくという論理的な関係性があるため、最終的にこのプロセスの形態でデータベースが完成形へと近づいていく。

ここで整理した過去の裏方・日陰的な地域産業の調査についての方法論の実践例として、次に大阪泉南地域のアスベスト産業の事例での成果を明確にすると共に、見えてきた課題や含意について検討を行う。

### 3. 大阪泉南地域のアスベスト産業の事例における実践

#### 3. 1. 先行的な調査や既存資料についての確認と整理

一般的な研究方法と同じく、過去の地域産業の調査を行うに当たって、先行的な調査研究や入手可能な資料についてのサーベイ調査を行い、自らの出発点の基盤を固める必要があ

る。

先にアスベスト産業は中間財産業として、裏方・日陰的存在であると述べたが、それは主要産業と比較した場合の相対的な程度差であり、大阪泉南地域のようにアスベスト産業の集積地の場合は、産業活動が興隆だった当初から地場産業の一つとしては認識されていた。その実例として、大阪府立商工経済研究所は1967年と1981年の大阪の地場産業についての報告書で同地域の石綿製品製造業を取り上げている<sup>1</sup>。どちらもその調査報告時点での地域産業としてのアスベスト産業の特徴や産業内の構造について、貴重な分析的記録資料ではあるのだが、あくまで単発的な特定時点の描写である。1981年の調査報告に至っては、報告書内の5~6ページ程度の分量に留まる。さらに、1981年調査報告では大阪泉南地域を中心とした業界団体である大阪石綿紡織工業組合(加盟43企業)を対象として、経営状況のアンケート調査も行った様子であるが、「有効回答数が7社~11社と少いため、概括的な記述に止めざるを得ない」(原文ママ)という結果でもあり、限定的で小規模な調査結果となってしまう<sup>2</sup>。この背景としては、1971年の特定化学物質等障害予防規則の制定、1975年の同規則改正といったアスベスト規制強化(集じん機導入といった防じん対策が求められるため、その設備投資・運転の経費が発生)によって経営・操業を圧迫する要因が強まってきたこと、すでに斜陽産業となりつつあることが伺える。これには先述(1. 1)のアスベスト災害の実態解明における第二の困難性である、ストック災害に直接関与する活動の一般的傾向としての閉鎖性も表れてきており、情報公開が積極的ではないことを示している。

過去の地域産業を主眼とした調査は上のものに限られているが、一方で何かしらの目的に即して、アスベスト工場の所在のリスト化のような断片的な調査も確認される。例えば、1970~80年代には大阪府の公害対策部局において、アスベストによる大気汚染防止の規制対応のため、電話帳を元に府内のアスベスト取扱事業所をリスト化して指導を行っていったとのことである<sup>3</sup>。またクボタショックによるアスベストの社会問題化を受けて活動が始まった「泉南地域の石綿被害と市民の会」では、地場産業としてのアスベスト産業がまだ盛んだったであろう1973年の住宅地図を入手して分布図を作成する試みが為された<sup>4</sup>。これらは特定の時点における地理的情報の把握に該当するが、前者は指導対象を特定化するための一時点での把握であり、後者は端的に過去に存在した工場の把握であって系統立った時間的情報は明確には組み込まれていない。その一方で、かつて筆者は以上の記録も踏まえた上で、同地域のアスベスト産業の歴史研究の必要性を鑑み、時間的情報と記述的情報を統一的に把握しうる資料として工場年鑑等の企業名簿型の統計資料が存在していることに着目し、その統計分析を中核としての調査研究を行い、2008年に成果を発信した<sup>5</sup>。この拙稿は、大阪泉南地域を対象にしたアスベスト災害と地域産業の研究として(その時点での入手し得た資料には限られるが)歴史的・記述的情報を総括したマイルストーンと手前味噌ながら言いうる。しかし、他の先行研究に見られる地理的情報を中心とした資料を十分に包摂していなかった点から、上述の一般的情報からの実態への接近として拡充の余地が大いにあるものと判断された。さらにデータベース化という点では、2008年の拙稿では調査・検討の結果のアウトプットであり、その素材となった記述的情報は、他者にとっては、個人収集の雑多とした資料としてしか取り扱えない状態であった。

以上が本研究で提起する方法論を実践するのに際しての前提条件や素材状態であり、改めて整理すると、①企業名簿型の統計資料を網羅的に集約しての記述的情報は一定整理出

来ている状態である、②住宅地図や電話帳といった地理的情報を時系列的にとりまとめた作業はまだ行っていない、③一般性(作成者以外も読解・参照可能)をもった統一的なデータベース化のフォーマットは未確定な状態にある、となろう。そこで、②の地理的情報の資料収集と③の一般性のフォーマットを意識したデータベースの構築作業を中心として、方法論の実践に取り組んで行った。

### 3. 2. データベース化の素材とフォーマットについて

素材としては先行調査で確認した工場年鑑等の企業名簿型統計資料、電話帳、住宅地図があり、さらにはアスベスト産業側からの統計資料として、業界団体(日本石綿協会)の会員名簿や、毎年12月に前年度分が厚生労働省によって公表される「石綿ばく露作業による労災認定等事業場」の情報も利用可能である。これらを一元的なデータベースとして集約し、それを調査研究のために利用・閲覧可能な状態にすることが次のステップである。その際、特殊・難解もしくは高価なソフトやサービスを介することなく使用できることが、広く一般に開けた研究成果の公表および科学進歩(この場合は実態解明への寄与)の履行の上で好ましいものであり、この点も考慮に含めている。

利用しうる調査対象の資料を整理したなら、次はその資料の収集調査の事務的処理の段階に入るのだが、これは単なる労力や手間暇の枠に留まらない物理的・金銭的制約でもあり、本論の掲げる地域研究の方法論においての実行可能性を左右するものである。まず工場年鑑系の統計資料はそもそも存在するかどうかの偶然性の問題があるが、存在する場合はむしろ利用上の制約は少ない。本研究の対象の大阪府の場合、公的な工場年鑑系の資料は比較的充実しており、規模の大きな図書館(大阪市立中央図書館や大阪府立中央図書館等)ならばまとめて収集されており、公的な公開資料ということから資料の半分以上といった共通ルール内ならコピーによる収集も容易である。

利用上の制約の大きさでいえば住宅地図が最も難点である。住宅地図も工場年鑑系と同様に作成・発行状況に依存するものであり、実際に大阪泉南地域では1970年代以降しか確認できていないとはいえ、一般的に全国に存在して利用しうるものである。地理的情報の一次資料として、古い記載住所の照会や場所の特定のためにも非常に有効であるが、なによりも著作権上の制約が大きい。住宅地図は地図作成会社の商品として制作されており、少々古い情報であっても私的な資本には変わりない。そういった事から図書館収蔵の住宅地図をコピーする場合、一般的な資料の半分までの制約に加えて、開いたページの見開き(つまり連続した2ページ分)の半分(分量の範囲内であれば上下左右のどちらでも可能)までしかコピーは認められないという特殊な制約が加わる。つまり、その住宅地図におけるある見開き部分の区画全域で調査対象であるアスベスト工場が分布している場合、コピー資料としてはその地図情報を完全な形で入手できないことを意味する。図書館訪問時の閲覧のみでデータ収集を行って作業が完了するのなら支障は大きくないのだが、実際にはデータベースを集約する作業において、他の電話帳等の情報と照会する際に元資料に戻る必要性が幾度となく発生するものであり、そのたびに図書館に通うのは多くの労力と時間の浪費でしかなく、作業遂行上に支障を来す。古い住宅地図を時系列的に入手するのが最も確実な方法であるが、これも容易ではない。古い住宅地図は古書市場での流通も少なく、一方で本件のような研究のみならずビジネスや趣味での調べ事のために住宅地図を利用する需要も多い

様子で、古いものほど高価である傾向がある。余談ながら大阪市立中央図書館や国立国会図書館を訪問すると住宅地図を使っている人がよく目に付く。古書市場での入手が出来ない場合は、最終手段として出版元に直接交渉で発注する方法があるものの高額の様子であり、(おそらく 2005~6 年頃)1973 年版の大阪府泉南市と現阪南市の住宅地図をその形で入手した「泉南地域の石綿被害と市民の会」の事例では計 13 万円ほどの金額だったとの話である<sup>6</sup>。つまり時間か金銭のいずれかが必要になりやすく、調査遂行上の懸念要素として注意する必要がある。

一元的なデータベース化としては、表形式でデータ毎の系列を統一かつ管理することから、エクセル形式のファイルにまとめることにした<sup>7</sup>。資料に掲載されている事業所名、住所、その他の記述的情報をリスト化していき、事業所名や住所から同一の存在であると判断しうるものは一つの対象の情報として組み合わせていくことで、個々のアスベスト工場の存在とその内容情報の両者を確認していった。地理的情報である住所が現在の設定と同じであれば地図上にプロットすることができ、GIS 系の分析にも応用することも可能になる。ただし、今回の対象地域内において、過去と現在で大きく住所設定(町名や番地)が変わってしまっている地区が含まれており、この場合は、過去の住所設定の区画情報が得られる古い住宅地図との照会で概ねの場所として絞りこんでいった。それでも、現住所名での該当地について全く目星がつかないもの、また、そもそも元資料で町名までしか書かれず番地が不明記なものもあったため、それらは正確な地理的情報が不明のデータとして扱わざるを得なかった。そして、地理的情報の視覚的表現については、一般的かつ簡単に閲覧・共有が可能であることから、Google マップのマイマップ機能を暫定的に利用した。Google マップの利点としては、無料でなおかつ特別高価な機材やソフトウェアを必要とせず、一般的なパソコンとインターネット環境があれば利用できる上に、記述的情報も直接組み込むことができることが挙げられる。予め作成したエクセル形式のデータベースを元にマイマップを作成すれば、プロットされた過去に存在した工場を示すピンを選択することで、その工場についての収集・整理した情報を即座に確認することが可能となる。以上のことから、エクセル形式でのリスト化と Google マップでの公開・共有という方向で作業を行った<sup>8</sup>。

この作業成果としての現時点での公表版を文末の資料として付しているが、これは各データを集約したことによって確認できる情報を端的に整理したものである。存在した期間を示す資料掲載確認時期についてもあくまで掲載された資料の発行年から、少なくとも確実に存在していたであろう期間という推測であり、一部の主要企業について創業年や終業等の情報が明確なものを除き、確認時期とした以外の期間にも存在していた可能性は大いにある。逆に、ある時期には存在していないことが確認されている場合もあり、その情報については極力、備考・考察に記載している。

### 3. 3. 統一的データ整理による発見や実証

本研究で集約・整理を行った大阪泉南地域のアスベスト企業・工場のデータ個数は、全期間を通じての累計で 188、その内の 81 が泉南市、83 が阪南市、24 が正確な住所が特定できなかったものである。なお、同一住所で異なる時期に別名の企業・工場が立地している場合、記述的情報から同一企業の名称変更であることが明確な場合は一つのデータとして統一し、逆に確認がない場合は別々のデータとしてカウントしている。また同名企業であっても立

地の移転や第二工場のようなパターンは立地毎に別々のデータとして扱っている。ここでは統一的な情報集約・データベース化を行った事による発見や実証について数点紹介する。

第一に日本のアスベスト産業における全国的な大手企業と泉南地域との関係性である。泉南地域では主に、原料アスベストから石綿糸・布を製造していたが、石綿糸・布はアスベスト製品において最終的な完成品(消費財)の原料となる生産財としての性格が強いものである。つまり、泉南地域のアスベスト企業・工場の多くはアスベスト産業全体における下請け・孫請けの位置づけにあったと考えられている。過去の拙稿<sup>9)</sup>においても主要アスベスト企業の社史等から確認できる企業間の関係について抽出していたが、さらに次の点が確認された。泉南地域の中では 50～99 人規模と大きめの企業であった藤本石綿(現ホンテス工業)について、他の資料では一切確認できないが、1979 年地図において同企業の立地で「(株)ノザワコーデックス工場」のプロットが確認された。(株)ノザワはかつての野沢石綿であり、日本の大手アスベスト企業の一つである。同社の過去の製品にノザワコーベックス(石綿含有岩綿吹付製品)があり、ノザワが藤本石綿に同製品の生産委託等をしてきた可能性が推測される(住宅地図の記載はこの製品名の記載ミスと推測される)ものである(巻末データ 75 番と 76 番)。他にも 1975 年と 1978 年の住宅地図において朝日石綿(現在の A&A マテリアル)の倉庫の存在も確認された(巻末データ 128 番)。1967～1971 年の電話帳から、日本バルカー工業の子会社である日本リンペット工事(株)の存在が確認され、その後は同じ立地で別のアスベスト企業となっている(巻末データ 157、158 番)。

第二に現地におけるオーラル・ヒストリーの実証である。「泉南地域の石綿被害と市民の会」代表の柚岡一禎氏の話されたことで、①当初(戦前まで)は主に泉南市の方にアスベスト工場が多かったが、戦後以降は現在の阪南市の方に工場の立地の中心は移行していったということ、②戦後まもなくは原料アスベストが入手できなかったのも、同じ機械を用いて、荒いロープなどを作る特殊紡績業へと転換する工場が多かったということ、③企業とはいえないような小さな家内工業的な工場も多く(100 以上とも思われるほど)存在していたこと、を指摘されていた。

①について、データベースにおける時間的情報から、泉南市と現阪南市の地域別で、1949 年以前、1950 年代、60 年代という形で一定期間ごとに存在していた工場の総数を集計した表 1 の通り、1950 年代まで泉南市側が多かったものが、1960 年代以降は阪南市側が多く存在する状態で推移したことが確認できる。

表 1 大阪泉南地域における年代毎のアスベスト工場立地数の推移

	～1949	1950 年代	1960 年代	1970 年代	1980 年代	1990 年代
泉南市	11	14	25	49	34	17
阪南市	2	10	35	57	49	33

②について、データベースに用いた資料の一つである 1954 年の『大阪府産業総覧』の「特殊紡績」の掲載欄における泉南郡の工場 170 の内、少なくとも 14 は屋号に「石綿」が含まれる、もしくは経営者が他のアスベスト企業の代表者であるなど、アスベスト産業との関係や転業の形跡が確認された。

③について、文末添付のデータベースでは個人名の多くはマスキングしているが、電話帳

の情報を加えた結果として、個人名義の工場も一定程度(29件、約15%)確認された(事業所機能のみや単に経営者の自宅住所の可能性もある)。

以上のように、時系列での産業的・地理的情報を一元的に組み合わせ、泉南地域におけるアスベスト産業の状態を一定程度は可視化することができ、被害影響や事例検証のための基礎的な素材となりうるものである。

#### 4. 結びにかえて：各時点のデータ類が残されることの意義

集約的なデータベースとしたことによる発見や実証の実例を上に掲げたが、研究の立場から改めて強調すべきは一定期間ごとに各時点の状態が記録された資料が残されていることの学術的・社会的な意義の大きさである。各時点における確定的な印字情報が作成され記録が残されることで、その記録は時間的情報を同時に内包することになる。このことは、始めから時間的情報の側面も踏まえて記録を残す目的で保存されているのであればデジタル化された情報でも目的に適うものであるが、地図情報や電話帳といった一般的情報の本来の目的を鑑みれば、常に最新の情報にアップデートされていなければ役に立たないものである。つまり、一義的な情報利用の目的のみが追求されるのであれば、コスト削減で紙媒体での印刷はされずにデジタルデータとしてのみ存在し、最新情報の更新の度に上書きされる(古い情報は破棄される)ことがデータ容量の効率的利用であり合理的である。実際にはデジタル化した一般的情報でも過去時点のデータが残されている例は多くあるとは考えられるが、本論で示したような過去の記録の社会的・学術的意義の目的が明確でなければ、記録の保存や状態保持についての担保や確実性がないことになる。この点では、その意義・目的が明確でなくても、アナログな形で記録が固着化される紙媒体の方が特定時点の情報としての確実性を有するといえる。

もともと、このような一般的な情報も含めて歴史を記録することは社会科学の基盤ともなり得ることは本論で示した通りであり、そうであれば一般的情報を含めた歴史の記録という行為には公共性があるといえる。その記録内容の確実性を保証する上でも、公的機関がその任を担うのが望ましいものである。現実にも、国立国会図書館が代表例であるが、公刊された資料や公的情報の保管というのは政府・自治体によって明確に実行されてきている。その取り組みが継続されること、現在進行形で様々な一般的情報が当初よりデジタル化されている中でもアナログなデータのみの場合と同様の時間的情報を内包した記録がなされることは、本論で取り組んだデータベース作成による地域研究へのアプローチを実行する上での必要条件であり、将来的な未踏の歴史研究を実行する可能性を開けておくことの意義も有するのである。

なお、本ディスカッションペーパーは調査研究活動の一環として行ったデータベースを中心に扱ったが、この内容は実際の研究論文においての素材や基礎であるとはいえ、データベースを含めて全てを明記することは分量の関係で難しいため、独立した考察としてまとめて公表を行うものである。対象事例・災害問題についての学術的な考察は今後の別稿で行うものである。

## 付記

本研究は JSPS 科研費 JP16K16242（平成 28 年度若手研究 B、研究代表者：南慎二郎）の助成を受けたものです。

---

<sup>1</sup> 大阪府商工経済研究所『大阪地場産業の実態 —その 10 石綿製品製造業』1967 年。同『大阪の地場産業 —その 2 業種別の実態—』1981 年、515～520 ページ。

<sup>2</sup> 同上、1981 年、519 ページ。

<sup>3</sup> 2007 年 12 月 7 日実施の大阪府環境農林水産部環境管理室事業所指導課へのヒヤリング調査による。

<sup>4</sup> 永尾俊彦『国家と石綿』現代書館、2016 年、147～148 ページ。

<sup>5</sup> その成果は次の論文でまとめている。南慎二郎「アスベスト産業の展開と労働災害の発生 —大阪府におけるアスベスト産業を中心に—」『別冊政策科学』アスベスト問題特集号、2008 年、145～165 ページ。

<sup>6</sup> 永尾俊彦、前掲書、147 ページ。

<sup>7</sup> データベース化を行う際に使用した資料については、文末添付のデータベースの末尾に示している。

<sup>8</sup> 試用段階として、Google マップ上にプロットしたデータベースは以下の URL にアクセスすることで閲覧可能である。なお、今後公開状態の変更や URL の変更等の可能性もあるため、永続的に利用を保証するものではありません。

<https://drive.google.com/open?id=1dwGc0t9SStH1VSU4xo0DBN6gee3M&usp=sharing>

<sup>9</sup> 南慎二郎、前掲論文、2008 年。

番号	小地区分類	企業・事業場名(同一のものが複数立地の場合は1/2、2/2、1/3、2/3、3/3の形でナンバリングと母数を付す)	資料掲載住所	現在住所(該当住所がない場合は隣接住所)	現在の状態 1:建物現存 2:別施設へ更新 3:詳細不明もしくは特定できず	備考・考察	資料掲載確認時期 (工場名鑑等や住宅地図の掲載年より)
<b>泉南市:確認数81</b>							
1	泉南市男里	ハマノ石綿工業所	男里30	〒590-0526 大阪府泉南市男里1丁目30	2	1971年電話帳と1975年住宅地図でのみ存在を確認。1990年住宅地図では「丸江繊維工業所」となっており、現在は(株)大阪キャンブリックケーブル製造所が立地している。	1971~1975
2	泉南市男里	丸江工業所	泉南市男里1-30	〒590-0526 大阪府泉南市男里1丁目30	2	厚労省労災認定事業所一覧より確認(石綿糸、石綿布等の石綿紡織製品の製造工程における作業)。住所と社名から、1975年住宅地図で「ハマノ石綿工業所」が立地していた場所に1990年住宅地図にて存在していた「丸江繊維工業所」に該当すると考えるのが妥当であろう。ハマノから丸江への社名変更とも考えられるが詳細は不明。	1990
3	泉南市男里	西河石綿紡織所(泉南)		〒590-0526 大阪府泉南市男里1丁目114	2	電話帳では1980年にのみ掲載が確認されるが、住所は「男里」のみで番地は不明記。78~79年住宅地図に「西河石綿紡織所」がプロットされている位置で確認したが、その場所には現在空き地が森しかない。  紡織所と紡績所の違いだけでほぼ同名である阪南市下出の企業との関係性も不明だが、大きく住所が異なることからひとまず別個のものとして両方プロットしている。	1978~1980
4	泉南市男里	不二アスベスト工業所 2/3		〒590-0526 大阪府泉南市男里3丁目5-2	3	不二アスベストは男里川を挟んだ阪南市側に立地の企業だが、泉南市版の1990年住宅地図でのみ、阪南の立地に加えてこの場所でも「(株)不二アスベスト工業所」がプロットされていることを確認(阪南市版の同年の住宅地図では空白)。1975年、1978年、1979年住宅地図では空き地、2001年には別の物件となっている。現在は倉庫の様子。1990年住宅地図では泉南市樽井(当時は鳴滝)にも「(株)不二アスベスト工業所」のプロットを確認。	1990
5	泉南市男里	三和石綿工業所	泉南市男里1063-7	〒590-0526 大阪府泉南市男里3丁目10-27	2	1975・80年電話帳では同じ住所で「三和石綿工業(株)」と「三和石綿工業所」がそれぞれ掲載されている(電話は異なる)。1975年および1979年住宅地図では「三和石綿工業所」とプロットされており、小さな森が隣接していた。1990年住宅地図では該当物件に特に記載はされていない。現在は複数の戸建住宅が立地。 阪南市鳥取中の「三和石綿」、「東亜石綿工業所」とは一体の会社か? また阪南市桑畑にあった工場でも「石綿工業所」のプロットがあった。 資料掲載:使覧1976・1979	1975~1979
6	泉南市男里	千万石石綿工業所(紡織所)	男里1162	〒590-0526 大阪府泉南市男里4丁目5-5	3	1967、71、75年電話帳でのみ確認。この旧番地は特定しきれていないが、近似的な番地の位置関係から推定的にプロットしている。ただし、1975年住宅地図ではこの付近のプロットは確認できない。	1967~1975
7	泉南市男里	宮本石綿	男里289	〒590-0526 大阪府泉南市男里5丁目1-2	2	1975年住宅地図での「宮本石綿」プロットおよび1980年電話帳の「宮本石綿」掲載から確認。「森内石綿工業所」と隣接する立地だった。1990年住宅地図では空白の物件となっている。現在この区画はCoCo壱番屋とコインランドリーとその駐車場スペースとなっている。	1975~1980
8	泉南市男里	森内石綿工業所		〒590-0526 大阪府泉南市男里5丁目1-2	2	1975年住宅地図でのみ存在を確認。「宮本石綿」と隣接する形で立地していた。1990年住宅地図では空白の物件となっている。現在この区画はCoCo壱番屋とコインランドリーとその駐車場スペースとなっている。	1975
9	泉南市男里	又野パッキン(株) 2/2	泉南市男里427	〒590-0526 大阪府泉南市男里5丁目10-1	1	1990年住宅地図ではこの場所に立地しており、会社含めて現存している。	1990~現在
10	泉南市男里	岡山商店(株)	泉南市男里561	〒590-0526 大阪府泉南市男里5丁目11-25	2	1986、1991年電話帳でのみアスベスト関連であること存在確認。1975年、1990年住宅地図の「岡山商店」プロットにより立地特定。2001年住宅地図では空き地状態になっており、現在は産経新聞りんくうタウン店尾崎専売所。	1975~1991
11	泉南市男里	泉州石綿運輸(有)		〒590-0526 大阪府泉南市男里5丁目18-9	2	1975年住宅地図でのみ存在を確認。1990年住宅地図では「(有)泉州急送」に変わっているが、厚労省労災認定事業所の記載から同じ企業の社名変更である。現在は空き地や戸建住宅となっている。この後、樽井3-33-5の住所に移転した様子。	1975~1990
12	泉南市男里	南條石綿工業所	男里811	〒590-0526 大阪府泉南市男里6丁目7-45	1?	1971年電話帳では南条石綿紡織所加工所、1975年電話帳では南条石綿加工所として掲載、住所は1990年住宅地図のプロットと一致している。また、90年住宅地図では1つの物件に「南條石綿工業所(株)且暮商店」とプロットされているので且暮商店と企業として直接関係する状態にあったと推察される。2001年住宅地図では「南條石綿工業所(株)且暮商店」のみプロット。Googleマップでは以前のままの建物が残っている様子だが詳細は不明。	1971~1990
13	泉南市男里	(株)且暮商店 南條 2/2		〒590-0526 大阪府泉南市男里6丁目7-45	1?	住宅地図でのみ確認。1990年住宅地図1つの物件に「南條石綿工業所(株)且暮商店」とプロットされているので両者は直接関係する状態にあったと推察される。2001年住宅地図で「南條石綿工業所(株)且暮商店」のみプロット。	1990

番号	小地区分類	企業・事業場名(同一のものが複数立地の場合は1/2、2/2、1/3、2/3、3/3の形でナンバリングと母数を付す)	資料掲載住所	現在住所(該当住所がない場合は隣接住所)	現在の状態 1:建物現存 2:別施設へ更新 3:詳細不明もしくは特定できず	備考・考察	資料掲載確認時期 (工場名鑑等や住宅地図の掲載年より)
14	泉南市男里	2/2	泉南市男里890	〒590-0526 大阪府泉南市男里6丁目12-27	3	個人名のみなので工場かどうかの詳細は不明。1975年と1980年の電話帳でのアスベスト関連の掲載でのみ確認。1975年が樽井、1980年が男里の住所と異なる。この男里890の旧番地は正確に特定できないため、近隣番地(男里899など)付近を暫定的にプロットしている。この地区を住宅地図で見ても該当するものは確認できない。	1980
15	泉南市男里	大元石綿工業所(大之石綿工業所?) →大元スレート(株)1/2	泉南市男里595	〒590-0526 大阪府泉南市男里6丁目13-12	2	現在住所は同一場所の一部。1978年住宅地図では道路を挟んだ向かいも工場敷地だった。現在は複数の戸建住宅が立地。1980年電話帳での広告欄: DAIGENマーク、石綿セメントボード製造販売 大平板、軟質板フレキシブル板 資料掲載: 名鑑1962・1965・1968、便覧1970・1973・1976・1979、電話帳広告	1962~1979
16	泉南市男里	菊谷石綿加工所	泉南市男里878	〒590-0526 大阪府泉南市男里6丁目15-17	3	1975・1980・1986年の電話帳でのみ存在確認。記載住所は巴石綿工業所と同じで電話番号は異なる。1975・1979年住宅地図では該当位置に巴石綿と東洋石綿しかプロットされていないので、これらと関係する存在かもしれないが詳細は不明。	1975~1986
17	泉南市男里	巴石綿工業所	泉南市男里878	〒590-0526 大阪府泉南市男里6丁目15-17	2	1975・1980年電話帳および住宅地図にて確認。1979年および1990年住宅地図では「巴石綿工業所」で、2001年住宅地図では「(株)富士コーポレーション南大阪営業所」のみプロットされている。現在は戸建住宅か?	1979~1990
18	泉南市男里	東洋石綿工業所(男里)	(旧番地)泉南市男里878	〒590-0526 大阪府泉南市男里6丁目15-19	2	住宅地図でのみ確認。1975・1979年住宅地図で巴石綿工業所の南隣に立地していた。1990年住宅地図では空欄、2001年住宅地図では「(株)富士コーポレーション南大阪営業所」と「(有)FGM」がプロット、現在の地図でも前者が立地している。 なお、現在の富士コーポレーションHPの会社概要によるとパッキング、ガasketの加工販売や断熱材、摩擦材の販売などを行い、クボタやニチアスなどと取引関係にある。会社沿革によると1963年に大阪市で「富士パッキング工業」として創立、1970年に石綿紡織品工場を東大阪市松原から阪南町に移転、1974年に阪南町の工場を泉南市男里に移転拡張、この泉南工場は2008年にアスベスト規制に対応して解体・建て増ししたとされる。 1954年存在確認の信達岡中にあった同名の企業との関係は不明。	1975~1979
19	泉南市男里	富士パッキング工業(株)(現 南エフ・ジー・エム)	泉南市男里6-15-19	〒590-0526 大阪府泉南市男里6丁目15-19	3	厚労省労災認定事業所の掲載より。住所が東洋石綿工業所と同一であり、2001年住宅地図にプロットされている「(有)FGM」に該当すると考えられる。石綿使用時期は不明記。詳細は同上。	(1974~)2001~2008
20	泉南市男里	大元スレート(株)その2 2/2		〒590-0526 大阪府泉南市男里7丁目27-12	2	現在住所は同一場所の一部。1978年住宅地図では道路を挟んだ向かいも工場敷地だった。	1978
21	泉南市男里	金沢石綿(後の東鐘工業所とは無関係か?)		〒590-0526 大阪府泉南市男里7丁目31-30	2	ここで働いたことがあるという青木善四郎氏の証言より、1979年および1990年住宅地図ではなにもプロットされていない。2006年7月の現地調査時にはまだ建物が残っていたが、現在は除却されている。	? 1950年代(〜60年)には少なくとも操業していた
22	泉南市新家	奥石綿工業所	大阪府泉南郡新家村1809	〒590-0503 大阪府泉南市新家1809	2	代表 〇〇〇〇。1943年頃の日本石綿製品工業組合員氏名表より確認。90年住宅地図、現在ともに森本紡績泉南寮。	1943
23	泉南市新家	三好石綿工業(株)大阪工場(三菱セメント建材)	泉南市新家2900	〒590-0503 大阪府泉南市新家2892	2	現在はマンション「ファミリー南大阪」等が立地。泉南地域で特に大規模な工場であり、現在の三菱マテリア建材に当たる。工場名鑑等での情報は多く、1977年頃にこの地域から工場は撤退した。 資料掲載: 総覧1954、名鑑1958・1962・1965・1968、要覧1962・1969、便覧1970・1973・1976	1919~1976
24	泉南市新家	ミナミライニング工業所	新家3683	〒590-0503 大阪府泉南市新家3683	3	1975、1980年電話帳掲載でのみ存在確認。1975年住宅地図では別の氏名がプロットされていたが、1990年住宅地図では「〇〇〇〇」がこの物件にプロットされている。Googleマップでは現在も古い民家が立地している様子である。	1975~1980
25	泉南市信達市場	片木石綿工業所	大阪府泉南郡信達町牧野市場100	〒590-0504 大阪府泉南市信達市場100	2	代表取締役: 〇〇〇〇。1943年頃の日本石綿製品工業組合員氏名表より確認。90年住宅ではなにもない場所なので同一番地のままかは不明。現在は戸建住宅が立地。	1943
26	泉南市信達市場	和泉石綿工業所	泉南郡泉南町信達市場2173	〒590-0504 大阪府泉南市信達市場2174	2	資料掲載住所では2173は現在の「フードショップかたぎ」の位置となるが、1975年と1990年と2001年の住宅地図で一貫して隣の物件(現住所番地で2174)に代表者である「〇〇〇〇」がプロットされているのでこちらに該当するだろう。電話帳では代表者の「〇〇〇〇」の名前で1967、1971、1975、1980年での掲載確認。 資料掲載: 名鑑1958・1962・1965・1968	1958~1980
27	泉南市信達大苗代	ホンダアスベスト工業所	丘団住56棟(1975年のみ43棟)	〒590-0505 大阪府泉南市信達大苗代240 UR都市機構泉南一丘団地52号棟	3	1975年、1980年、1986年電話帳でのみ掲載確認。それ以外の詳細は不明で、住所も団地の棟のみなので工場の可能性は低いか。1990年住宅地図の団地棟内の入居者名には該当と思える名前は見当たらない。工場は泉佐野市内か?(永尾、2016年、99ページ)	1975~1986
28	泉南市信達大苗代	光陽石綿(株) 2/2		〒590-0505 大阪府泉南市信達大苗代551-2	2	『大阪府精密住宅地図 泉南市』(吉田地図株式会社)の1975、1979年ではこの場所にも「光陽石綿(株)」がプロットされていた。その後、1990年住宅地図では日光アスベスト工業所となっている。	1975~1979

番号	小地区分類	企業・事業場名(同一のものが複数立地の場合は1/2、2/2、1/3、2/3、3/3の形でナンバリングと母数を付す)	資料掲載住所	現在住所(該当住所が現在ない場合は隣接住所)	現在の状態 1:建物現存 2:別施設へ更新 3:詳細不明もしくは特定できず	備考・考察	資料掲載確認時期 (工場名鑑等や住宅地図の掲載年より)
29	泉南市信達大苗代	日光アスベスト工業所	大苗代551	〒590-0505 大阪府泉南市信達大苗代551-2	1	75年、79年住宅地図では「光陽石綿(株)」が立地していたが、90年住宅地図では「日光アスベスト工業所」となっている。ただし、電話帳では1975年には同住所で「日光アスベスト」が登場しており、どのような変遷かは不明(75、80、86、91年で電話番号は変わらず)。また、[ ]も同じ住所で電話帳に掲載されているが、住宅地図では納屋と共にすぐ南に接した立地にある。現在は「日光工業」が立地。	1990～現在
30	泉南市信達大苗代	[ ]	大苗代551	〒590-0505 大阪府泉南市信達大苗代1014	1?	チェックした電話帳(1967、71、75、80、86、91年)全てで掲載。電話帳では日光アスベスト工業所と同じ住所だが、75、79、90年地図では光陽石綿もしくは日光アスベストのすぐ南側に納屋と共にプロットされている。2社との関係は不明。現在もそのまま戸建住宅が建っているように見える。	1967～1991
31	泉南市信達岡中	[ ]	岡中365	泉南市信達岡中?	3	1967、1971、1975、1980年の電話帳掲載により確認。この住所は現在存在しておらず、正確な場所はわからないので近接番地(岡中300番台)の付近に暫定的にプロットしている。1975年住宅地図で信達岡中に [ ] のプロットは見つからなかった(ただし、この地区には [ ] は多い)。1990年住宅地図では別名の個人宅に岡中365が当たっているが、1975年地図から変わっていない物件であり、現在住所も岡中315なので異なると思われる。	1967～1980
32	泉南市信達岡中	伊藤石綿工業所	泉南郡信達町岡中635	〒590-0523 大阪府泉南市信達岡中635	3	googleマップでは詳細まで確認できないが、古い建物が残っている様子。 資料掲載: 総覧1954	1954
33	泉南市信達岡中	東洋石綿工業所(信達岡中)	大阪府泉南郡信達町岡中1165	〒590-0523 大阪府泉南市信達岡中1165	3	1954年日本石綿協会名簿のみで確認。1990年住宅地図では個人宅しか見当たらず、現状も同じ。 1979年存在確認の男里にあった同名の工場との関係は不明。	1954
34	泉南市信達金熊寺	[ ]	金熊寺550	〒590-0514 大阪府泉南市信達金熊寺550	3	1967、1971、1975、1980年電話帳にて確認。泉南市立東小の前の。1975年住宅地図では「[ ]と[ ]」になっているが、1990年住宅地図でも「[ ]」がプロットされている。2001年住宅地図および現在(Googleマップ)は泉陽保温工業所が立地(施設は昔のままか?)。	1967～1980
35	泉南市信達牧野	若林石綿工業所 [ ]	泉南郡泉南町信達牧野20	〒590-0522 大阪府泉南市信達牧野17	2	過去の住宅地図での番地とプロットされた名前から特定。1979年住宅地図では「若林燃糸」となっており、1990年住宅地図でも「[ ]宅」と「若林燃糸」がプロットされている。2001年にはマンション「パルビゾン」と変わっており、現在も同マンションとその駐車場の敷地に概ね該当。 資料掲載: 名鑑1958・1962・1965・1968	1958～1968
36	泉南市信達牧野	[ ]	牧野219	〒590-0522 大阪府泉南市信達牧野219	3	1967年電話帳でのみ掲載。1975、1990年住宅地図では「[ ]」でこの場所にプロットされているので代表者住居のみかもしれない。この住所は現在の榎本商会在が立地している場所も含まれるが、道を挟んだこの位置に該当。	1967
37	泉南市信達牧野	[ ] 2/2	牧野255	〒590-0522 大阪府泉南市信達牧野255	3	1971、1975、1980年電話帳でのみ確認。71年と75年での掲載住所の牧野255、80年掲載住所は牧野318であり、ここでは牧野255の方のプロットに該当する。榎本新平工場のすぐ裏手の場所に当たるが、1975年住宅地図では「伸和紡績(株)」の敷地となっている。1990年住宅地図では複数の戸建住宅となっている。	1971～1975
38	泉南市信達牧野	松山石綿工業(株) 2/2	牧野287	泉南市信達牧野287?	3	電話帳で1967、1971、1975、1980年に掲載、住所と電話番号は地図でも工場が確認できている「松山石綿工業(株)」とは別。この住所に該当する場所には、1975年、1990年住宅地図ではなにもなく、現在は新しい戸建住宅が立地している様子である。特に掲載時期が重なる1975年住宅地図で牧野408以外に「松山石綿工業」のプロットは見当たらないので、工場が存在していたかは不明。	1967～1980
39	泉南市信達牧野	森田石綿工業所	泉南郡泉南町信達312-1	〒590-0522 大阪府泉南市信達牧野312-1	3	信達で存在する同一番地より判断。1979年住宅地図の時点で存在は確認できない。同番地には1990年および2001年住宅地図で「榎本茂夫」宅がプロット。Googleマップでは現在も2001年時点と同じと思われる建物が立地しているが詳細は不明。 資料掲載: 総覧1954、名鑑1958	1954～1958
40	泉南市信達牧野	[ ] 1/2	牧野318	〒590-0522 大阪府泉南市信達牧野318-1	3	1971、1975、1980年電話帳でのみ確認。71年と75年での掲載住所の牧野255、80年掲載住所は牧野318であり、これは牧野318の方のプロットに該当する。この物件は1975年住宅地図では「[ ]」、1990年住宅地図では「[ ]」でプロットされている。現在もそのままか?	1980
41	泉南市信達牧野	池原石綿工場	大阪府泉南郡信達町牧野338	〒590-0522 大阪府泉南市信達牧野338	3	代表者: [ ] 1943年頃の日本石綿製品工業組合員氏名表より確認。1990年住宅地図では集合住宅であり、現在もその状態にあると思われる。	1943

番号	小地区分類	企業・事業場名(同一のもの複数立地の場合は1/2、2/2、1/3、2/3、3/3の形でナンバリングと母数を付す)	資料掲載住所	現在住所(該当住所がない場合は隣接住所)	現在の状態 1:建物現存 2:別施設へ更新 3:詳細不明もしくは特定できず	備考・考察	資料掲載確認時期 (工場名鑑等や住宅地図の掲載年より)
42	泉南市信達牧野	松山石綿工業(有)(株) 1/2	泉南市信達牧野408	〒590-0522 大阪府泉南市信達牧野407-3	2	1979年住宅地図ではこの位置に工場のプロットを確認。1990年住宅地図ではすでに別施設「閑塾石川進学教室」と変わっている。2001年住宅地図では物件のみ存在して無記入。電話帳では「松山石綿(株)」として1967、1971、1975、1980で掲載され、代表者である「」と並んで掲載されている。電話帳ではこれとは別住所(牧野287)で「松山石綿工業(株)」がもう一つ掲載されているが関係性などは不明。 googleマップ航空写真では現在は空き地・駐車場。 資料掲載:総覧1954、名鑑1958・1962・1965・1968、便覧1970・1973・1976・1979・1982	1954~1982
43	泉南市信達牧野	榊屋石綿紡織所	泉南市信達牧野445	〒590-0522 大阪府泉南市信達牧野445	2	1912年創業の泉南で最も古いアスベスト企業。この前身の日本アスベストの同地工場が1908年に国産初の石綿紡織に成功したことをきっかけに、泉南地域でアスベスト産業が盛んとなった。2005年に廃業し、工場跡地は現在「ほんみち(宗教法人)信達第二作業所」 資料掲載:総覧1954、名鑑1958・1962・1965・1968、要覧1966・1969、便覧1970・1973・1976・1979・1982・1985・1988・1991・1994	1954~1994(～2006?)
44	泉南市信達牧野	仲谷石綿工業所(仲谷石綿工業株)(91年にはナカタニ産業株) 1/2	(1988年以降) 泉南市信達牧野472-2 (1985年以前) 泉南市信達牧野524-1	〒590-0522 大阪府泉南市信達牧野471-17	2	現在住所は同一場所の一部。 1980年代後半に住所番地が異なるが、過去(1979年地図)の立地場所が住所(現在)と同じ場所なので番地設定のみの変更か? ちなみに1990年住宅地図では工場の立地している同じ場所に「信達牧野524-1」が記載されている。2001年には同立地で「ナカタニ産業(株)」が存在していたが、現在は複数の戸建住宅が立地。 資料掲載:総覧1954、名鑑1958・1962・1965・1968、要覧1962・1966・1969、便覧1970・1973・1976・1979・1982・1985・1988・1991・1994、電話帳広告  1990年住宅地図では以下の阪南市山中溪の位置にも「仲谷石綿工業(株)」がプロットされている。 〒599-0214 大阪府阪南市山中溪519	1954~1994
45	泉南市信達牧野	梶本英石綿工業所	大阪府泉南郡信達町牧野542	〒590-0522 大阪府泉南市信達牧野542	2	代表取締役:。1943年頃の日本石綿製品工業組合員氏名表および1947年の日本石綿協会員名簿より確認。 1990年地図では同場所に「梶本工場」とプロットされているが、アスベスト取扱かどうかは不明。現在は戸建住宅と駐車場。	1943~1947
46	泉南市信達牧野	日本石綿パッキング研究所 1/2	泉南郡信達町牧野557	〒590-0522 大阪府泉南市信達牧野557	3	代表者: 光陽石綿の代表者と同姓同名)。古めの木造戸建住宅等が立地。同一かどうかの詳細は不明。掲載の1954年資料では従業員39人の規模なので工場は残っていないか? 1947年日本石綿協会員名簿でもこの住所。1990年住宅地図では「」宅がプロット。 資料掲載:総覧1954	1947~1954
47	泉南市信達牧野	柴田石綿紡織所	大阪府泉南郡信達町牧野589	〒590-0522 大阪府泉南市信達牧野588-2	2	1947年日本石綿協会員名簿の掲載のみ。現在の住所番地設定と若干ずれており、1979年地図での牧野589は現在宮脇書店泉南店とローソンが立地している敷地だった。1979年地図では「柴田紡績(株)」の敷地の一部、1990年では「(株)泉州植物卸売市場」(道路を挟んだ敷地には柴田紡績は残っていた)がプロットされている。2001年住宅地図ではすでに宮脇書店が立地しており、「柴田紡績」も姿を消している。名前からは「柴田紡績」の前身もしくは関連企業だったか?	1947
48	泉南市信達牧野	梶本石綿紡織所	大阪府泉南郡信達町606	〒590-0522 大阪府泉南市信達牧野606	2	代表者:。1943年頃の日本石綿製品工業組合員氏名表より確認。90年住宅地図では「」宅。現在も同じ構成で戸建住宅が立地。	1943
49	泉南市信達牧野		牧野646	〒590-0522 大阪府泉南市信達牧野646	3	1975年の電話帳でのみ存在確認。後の梶本石綿加工所と同じ住所である。電話帳かつ個人名のみ情報なので詳細は不明。	1975
50	泉南市信達牧野	梶本石綿加工所 2/2	泉南市牧野646	〒590-0522 大阪府泉南市信達牧野646	3	以前は牧野1335だったが、1986・1991年ではこの牧野646の住所に変わっている。1990年住宅地図では「」宅と共に直結する「織布工場」がプロットされている。なお、1975年住宅地図では「織布工場」は付いていないがすでに「梶本一男」のプロット。	1986~1991
51	泉南市信達牧野	梶本ライニング(株)	泉南市信達牧野(電話帳掲載では1986年版を除き梶本新平工場と同じ牧野1331)	〒590-0522 大阪府泉南市信達牧野683-5	1	現在も本社が立地。電話帳の1986年版のみこの住所だが、1967・1971・1975・1980・1991年版では梶本新平工場と同じ牧野1331の住所となっている。 資料掲載:便覧1970	1970(～現存)
52	泉南市信達牧野	若野石綿	牧野1239	〒590-0522 大阪府泉南市信達牧野1239	3	1967、1971、1975、1980年の電話帳でのみ存在確認。ただし、1975年、1990年住宅地図ではこの位置に関連する名前は確認できない。	1967~1980
53	泉南市信達牧野	日本石綿パッキング研究所その2(戦前) 2/2	大阪府泉南郡信達町牧野1286	〒590-0522 大阪府泉南市信達牧野1286	2	代表取締役: 光陽石綿の代表者と同姓同名)。1943年頃の日本石綿製品工業組合員氏名表より確認。戦後資料と住所番地が異なるので別途掲載。90年住宅地図では複数の個人宅と駐車場。現在は集合住宅(ロイヤルマンション)が立地。	1943

番号	小地区分類	企業・事業場名(同一のものが複数立地の場合は1/2、2/2、1/3、2/3、3/3の形でナンバリングと母数を付す)	資料掲載住所	現在住所(該当住所が現在ない場合は隣接住所)	現在の状態 1:建物現存 2:別施設へ更新 3:詳細不明もしくは特定できず	備考・考察	資料掲載確認時期 (工場名鑑等や住宅地図の掲載年より)
54	泉南市信達牧野	カネヒ石綿紡織所	大阪府泉南郡信達町牧野1288	〒590-0522 大阪府泉南市信達牧野1288	3	代表取締役: [ ]。1943年頃の日本石綿製品工業組合員氏名表より確認。90年住宅地図ではマキノ毛糸店。現在は建物もこの頃のものが残っているか?	1943
55	泉南市信達牧野	梶本新平工場(梶本石綿)	泉南郡泉南町1331	〒590-0522 大阪府泉南市信達牧野1331	1	掲載住所では地区が特定出来ないが、梶本医師宅の番地が1331に該当。厚労省の事業所公表でも「梶本石綿工業所」はこの住所。『大阪府精密住宅地図 泉南市』(吉田地図株式会社、1979年)でも「梶本新平」名がプロット。電話帳の年版によっては「梶本ライニング」の住所がこれと同じになっていた。 資料掲載: 名鑑1965・1968	1965~1968
56	泉南市信達牧野	梶本織物工場 梶本石綿加工所 1/2	泉南郡泉南町信達牧野1335	〒590-0522 大阪府泉南市信達牧野1335	3	工場名鑑等では1965年のみ。電話帳では1967年は [ ]、1971・1975・1980年はこの住所で「梶本石綿加工所」として掲載された。1986・1991年では牧野646に変わっている。 1975年住宅地図ではすでに「袖岡」とプロットされている(すぐ北側の1337の番地はその後も [ ]とプロットされているが無関係か?)。1990年住宅地図では [ ]名のみがプロット。現在のGoogleマップでは「有朋館道場事務局」が立地。 資料掲載: 名鑑1965	1965~1980
57	泉南市信達牧野	金沢石綿工業所(88年から東鐘工業所、2008年から東鐘工業株式会社)2005年以降の会社と工場・倉庫 金沢・東鐘2/2		〒590-0522 大阪府泉南市信達牧野1533	1	泉南市樽井の金沢石綿/東鐘工業所の2005年以降の住所による。1979年および1990年住宅地図では「倉庫」とプロットされている。会社HPによると2005年にこの場所に移転。現在は倉庫となっているが、かつての工場だったと考えられる。	2005?(~現在)
58	泉南市信達牧野	光陽石綿工業所(光陽石綿株)(91年には光陽株) 1/2	泉南市信達牧野1533(1970年泉南市信達牧野1515)	〒590-0522 大阪府泉南市信達牧野1533	1	住所は東鐘工業所倉庫と同じだが、やや北よりの立地。現在も企業・工場が現存。 電話帳ではこの住所とは分けて、牧野1515の住所に1967・71・75年に「光陽石綿工業所」、1980年に「光陽石綿(株)」、1975・80・86・91年に [ ]での掲載がある。 資料掲載: 名鑑1958・1962・1965・1968、便覧1970・1973・1976・1979・1982・1985・1988・1991・1994、電話帳広告	1954~1994(~現在)
59	泉南市信達牧野	太陽アスベスト	牧野1533	〒590-0522 大阪府泉南市信達牧野1533	3	1967・1971・1975・1980・1986・1991年電話帳では「太陽アスベスト工業所」で掲載。 『大阪府精密住宅地図 泉南市』(吉田地図株式会社、1979年)では「太陽アスベスト」がプロットされている。90年住宅地図では建物はあるがなにも記載されていないが、2001年住宅地図では光陽(株)の工場がプロットされている。「太陽アスベスト」は工場名鑑等にでてこない。現在のgoogleマップ等では「M-STYLE」とプロットされている(会社名か?)。	1967~1991
60	泉南市信達牧野	理成石綿工業株	泉南市信達牧野1562	〒590-0522 大阪府泉南市信達牧野1562	2	少なくとも1971年電話帳からは掲載確認。1975年および1979年住宅地図では「理成石綿工業(株) [ ]」と記載されている。1990年地図では [ ]宅のみが明記されている。2001年には空き地状態になっている。現在は複数の戸建住宅が立地。 資料掲載: 便覧1973・1976・1979・1982	1971~1982
61	泉南市信達六尾	梶旦暮商店 1/2	泉南市信達牧野650	〒590-0515 大阪府泉南市信達六尾650	1	今も「(株)旦暮」として立地。この住所は信達工場もしくは六尾工場として電話帳にも掲載されていた。1967、1971、1975、1980年電話帳では「旦暮商店」の住所は牧野476(正確な位置は特定出来ない)として掲載されていた。 1979年住宅地図では男里の1つの物件に「南條石綿工業所(株)旦暮商店 [ ]」とプロットされている。 資料掲載: 総覧1954、名鑑1962・1965・1968、便覧1970・1973・1976・1979・1985・1988・1991	1954~1991(~現在)
62	泉南市樽井	東邦紡績(株)	泉南市樽井	〒590-0521大阪府泉南市樽井2丁目15-26	2	厚労省労災認定事業所に掲載(石綿糸、石綿布等の石綿紡織製品の製造工程における作業)、石綿使用時期や番地は不明だが、1975年住宅地図のプロットにより場所を特定。1990年住宅地図の時点で現在と同様の多数の戸建住宅と公園の構成に変わっている。現在の樽井2丁目12~17の区画にまたがる規模の工場だった様子。	1975
63	泉南市樽井	[ ]	馬場757	〒590-0521 大阪府泉南市樽井3丁目1-32	3	1967、71、75、80年電話帳でのみ確認。1975年住宅地図にてこの立地に [ ]のプロットを確認。1990年住宅地図では [ ]、現在は「高山建築」。個人名のみなので工場立地かどうかの詳細は不明。	1967~1980
64	泉南市樽井	[ ]	泉南市樽井556	〒590-0521 大阪府泉南市樽井3丁目6-29	3	1975・1980年電話帳でのみ存在確認。個人名のみなので工場かどうかの詳細は不明。旧番地の正確な特定はできていないが、住宅地図の近似的な位置に設定している。なお、誤植の可能性があるため記録しておくが、1975年住宅地図ではこの位置に [ ]がプロットされている。	1975~1980
65	泉南市樽井	又野石綿加工所	泉南市樽井558	〒590-0521 大阪府泉南市樽井3丁目6-35	3	1971年電話帳でのみ存在確認なので詳細は不明。1975年住宅地図では「菓子又野」、1990年住宅地図では [ ]がプロットされている。	1975

番号	小地区分類	企業・事業場名(同一のものが複数立地の場合は1/2、2/2、1/3、2/3、3/3の形でナンバリングと母数を付す)	資料掲載住所	現在住所(該当住所がない場合は隣接住所)	現在の状態 1:建物現存 2:別施設へ更新 3:詳細不明もしくは特定できず	備考・考察	資料掲載確認時期 (工場名鑑等や住宅地図の掲載年より)
66	泉南市樽井	泉州石綿運輸(有) (現(有)泉州急送)	泉南市樽井3-33-5	〒590-0521 大阪府泉南市樽井3丁目33-5	1	厚労省労災認定事業所の掲載よりの確認。住所が1975年住宅地図で発見した位置と異なる。1975年や1990年住宅地図ではこの場所は空白になっているが、2001年住宅地図ではこの位置に「(有)泉州急送」がプロットされていることから、この期間に移転したものと考えられる。現在の地図でもこの「(有)泉州急送」が立地している。	2001
67	泉南市樽井	金光石綿所	樽井1956 1968年電話帳でのみ樽井78、	〒590-0521 大阪府泉南市樽井4丁目22-1	3	1967、1971、1975、1980年電話帳で存在確認。電話帳以外では登場しない。住宅地図では一貫して「金光」とプロットされている物件で、建物が昔のままかの詳細も不明。なお、68年掲載の住所はすぐ近くで、1990年住宅地図では「■■■■」宅。	1967~1980
68	泉南市樽井	朝日パッキン製作所	樽井1837	〒590-0521 大阪府泉南市樽井4丁目38-7	2	1967年電話帳でのみ存在確認。住所が藤本石綿紡績(株)の1969年以前の住所と同じ。1975年住宅地図以降の現在(googleマップ)に至るまで、■■■■姓の戸建住宅が立地している。	1967
69	泉南市樽井	■■■■	樽井2045	〒590-0521 大阪府泉南市樽井5丁目2-15	2	1971、1975年電話帳にて確認。1975年住宅地図でも■■■■のプロットを確認。個人名なので詳細は不明。90年住宅地図ではすでに確認できない。現在は新しい戸建住宅となっている。	1971~1975
70	泉南市樽井	■■■■	樽井2045	〒590-0521 大阪府泉南市樽井5丁目2-17	2	1975年電話帳でのみ存在確認。住所は■■■■と同じだが電話番号は異なっている。1975年住宅地図では■■■■の2件南隣に■■■■のプロットがされている。個人名なので詳細は不明。90年住宅地図ではすでに存在を確認できない。現在は新しい戸建住宅となっている。	1975
71	泉南市樽井	■■■■ 1/2	泉南市樽井2138	〒590-0521 大阪府泉南市樽井5丁目11-23	3	個人名のみなので工場かどうかの詳細は不明。1975年と1980年の電話帳でのアスベスト関連の掲載でのみ確認。1975年が樽井、1980年が男里の住所と異なる。この樽井2138の住所は1975年での掲載だが、1975年、1990年住宅地図ではいずれも■■■■等の戸建住宅のみで■■■■のプロットも確認できない。	1975
72	泉南市樽井	佐々木石綿工場	大阪府泉南郡樽井町2190	〒590-0521 大阪府泉南市樽井5丁目12-16	2	代表者:■■■■。1943年頃の日本石綿製品工業組合員氏名表より確認。90年地図より番地の位置を特定。泉文化住宅がプロットされており、それが現存。	1943
73	泉南市樽井	金山石綿織布	泉南市樽井2156	〒590-0521 大阪府泉南市樽井5丁目25-31	2	1975・1980年電話帳でのみ存在確認なので詳細は不明。1975年住宅地図では該当の旧番地の位置に「金山」のプロットがある。90年住宅地図では何もプロットされていない。現在(googleマップの航空写真)は更地か。	1975~1980
74	泉南市樽井	又野パッキン(株) 1/2	泉南市樽井1657	〒590-0521 大阪府泉南市樽井5丁目26-17	3	1975年電話帳での広告でのみ確認、ニチアスとの関係が確認できる。この住所は1975年住宅地図では■■■■がプロットされているが、1990年住宅地図では空白物件。広告欄:(トンボマーク)ニチアス製品 テフロン・樹脂製品 ゴムパッキング・金属パッキング 住宅地図のプロットは異なっている。 資料掲載:電話帳広告	1975
75	泉南市樽井	榎藤本石綿紡績(株) (79年にはホンテス工業)	泉南市樽井1809 1969以前:樽井1837-1 1970年:樽井1937	〒590-0521 大阪府泉南市樽井5丁目45-13	1	企業、工場ともに現存。1990年頃には阪南市自然田344に第二製造部が立地。1969年以前の住所は1967年のみ存在確認の「朝日パッキン製作所」と同じ住所であり、1975年住宅地図以降の現在(googleマップ)に至るまで、■■■■の戸建住宅が立地している。1970年の樽井1937については特に特徴はなく詳細は不明(誤植?)。 資料掲載:総覧1954、名鑑1958・1962・1965・1968、要覧1962・1966・1969、便覧1970・1973・1976・1979・1982・1985・1988・1994、電話帳広告	1954~ 1994(~現在)
76	泉南市樽井	(株)ノザワコーデックス工場(ノザワコーベックス?)		〒590-0521 大阪府泉南市樽井5丁目45-13	3	1979年住宅地図でのプロットでのみ確認。ホンテス工業と全く同じ敷地に同時に配置されている。この時の敷地は後の90年住宅地図での東鐘工業所の部分も含めて一体のものとなっており、金沢石綿は立地していない。  地図資料のチェックでは「コーデックス」とメモしていたが、石綿含有岩綿吹付製品の「ノザワコーベックス」の事と思える。この名称でのグループ会社が確認できていないので、(株)ノザワがホンテス工業に生産委託をしていたということか?	1979年
77	泉南市樽井	金沢石綿工業所 (88年から東鐘工業所、2008年から東鐘工業株式会社) 旧工場立地場所 金沢・東鐘1/2	泉南市樽井1810	〒590-0521 大阪府泉南市樽井5丁目45-34	2	1967年電話帳にも掲載確認。現在も会社は存在。2005年までの主にアスベストを扱ったのはこの住所だった。住所(現在)については1990年住宅地図より、資料住所の該当番地付近に「東鐘工業所」がプロットされていることから特定。現在は(株)泉南自動車教習所の施設の一部となっている。なお、ホンテス工業と隣接した立地だった。 http://toshoserver-shared.com/ 資料掲載:名鑑1968、便覧1970・1973・1976・1979・1982・1985・1988	1967~ 1990(? 2005?)

番号	小地区分類	企業・事業場名(同一のものが複数立地の場合は1/2、2/2、1/3、2/3、3/3の形でナンバリングと母数を付す)	資料掲載住所	現在住所(該当住所がない場合は隣接住所)	現在の状態 1:建物現存 2:別施設へ更新 3:詳細不明もしくは特定できず	備考・考察	資料掲載確認時期 (工場名鑑等や住宅地図の掲載年より)
78	泉南市 樽井	光石綿工業所	泉南市樽井1372	〒590-0521 大阪府泉南市樽井6丁目5-10	2	元々、1958年より存在確認の貝塚市で「大成石綿工場」だった企業が1965年工場名鑑より「光石綿工業所」に名称変更したものと推察される。電話帳広告の情報から、泉南には遅くとも1967年には工場立地。 工場便覧では1976年より泉南市樽井の住所へと変わっていた。1975年および1979年住宅地図にて該当番地でのプロット確認。1990年住宅地図ではほぼ同じ敷地で「毎日燃糸工業所」がプロットされていたが、2001年には現在のような複数の戸建住宅となっている。 資料掲載：便覧1976・1979・1982、電話帳広告	1967～1982
79	泉南市 樽井	■■■■■	鳴滝1769	〒590-0521 大阪府泉南市樽井8丁目9-5	3	1975、1980年電話帳でアスベスト関連を確認。1975年住宅地図では存在しないが、1990年住宅地図では該当住所に漢字一文字違いの「■■■■■」がプロット。なお、すぐ北に隣接して「(株)不二アスベスト工業所」も立地。同じ場所だが現在は町域の変更からか鳴滝から樽井の住所へと変わっている。現在は倉庫か？	1975～1980
80	泉南市 樽井	(株)不二アスベスト工業所 3/3		〒590-0521 大阪府泉南市樽井8丁目9-5	2	1990年住宅地図プロットでのみ確認、この時点では鳴滝の町域だが現在は樽井に該当。阪南市鳥取中の同名会社の施設かどうか詳細は不明。1990年住宅地図では泉南市男里でも「(株)不二アスベスト工業所」がプロットされている。現在は駐車場「不二モータープール」となっている。	1990
81	泉南市 馬場	北浦石綿工業所 泉南工場		〒590-0525 大阪府泉南市馬場2丁目13-11	3	1975年住宅地図でのみ存在を確認。阪南市黒田に立地の同名企業と同じかどうかの詳細は不明だが、工場年鑑等での掲載情報ではこちらには触れられていない。1990年住宅地図では、75年に隣にあった「阪下整毛所」がこちらに移る形になっている。2001年住宅地図では「白谷燃糸」がプロット、現在は「オートサービスキJ」の立地している場所で、スレート屋根を使った工場建物らしきものは確認できる。建物が当時のままかどうかは不明。	1975
阪南市:確認数83							
82	阪南市 石田	南石綿工業その2 2/2		〒599-0221 大阪府阪南市石田476-6	2	1978年住宅地図では道路を挟んだ向かいのこの場所も工場敷地だった。90年では何も名称は記されていない。現在は戸建住宅が複数立地。	1960～1982
83	阪南市 石田	南石綿工業(株) (90年には(株)ミナミ産業) 1/2	泉南郡阪南町石田575	〒599-0221 大阪府阪南市石田575	2	電話帳では1967～1986年掲載確認。1990年住宅地図では「(株)ミナミ産業」としてプロットされている。すでに解体撤去されて空き地状態 (googleストリートビュー、2015年1月現在)。 資料掲載：名鑑1958・1962・1965・1968、便覧1970・1973・1979・1982、電話帳広告	1960～1990
84	阪南市 石田	昭和石綿(79年から昭和耐熱株) 2/2		〒599-0221 大阪府阪南市石田630-1	2	『大阪府精密住宅地図 阪南町』(吉田地図株式会社、1978年・1990年)では上の住所の道を挟んだ北側、東鳥取小学校に隣接する位置にプロットされている。電話帳では併記もしくは作業場として1975年に「石田639」、1980年に「石田721」の住所が掲載 (いずれも現在は存在しない番地) されているが、これに該当するものか？現在はマンション「ミラージュ」が立地。	1958～1991
85	阪南市 石田	津田産業(株)	泉南郡阪南町石田712	〒599-0221 大阪府阪南市石田711	2	工場便覧1985年および電話帳1980年でも掲載を確認。1990年住宅地図やgoogleマップ上では「津田薬局」となっていて実際に現在も「くすりのツダ」として現存しているが、googleマップ上での「津田産業」の検索で反応し、市民の会の林さんの証言でもここが津田石綿だったとの話。事業体そのものは現存で業態が全く変わった形か。 資料掲載：便覧1985	1980～1985(～現在?)
86	阪南市 和泉鳥取	山仲石綿工業所(山中石綿、三栄石綿)	泉南郡阪南町和泉鳥取1433 (1968年工場名鑑や1967年電話帳では泉南郡東鳥取町山中869、1970年工場便覧では泉南郡東鳥取町山中1433、1979年以降に和泉鳥取1433の住所)	〒599-0213 大阪府阪南市和泉鳥取1433	1	電話帳では1967～1986年の掲載確認。80年の掲載のみ社名が「三栄石綿工業所」となっていた。78年地図のプロット位置は個人名併記(山中石綿 ■■■■■)で、その南側に工場「北浦瓦工業所」が立地していたが、90年地図では工場の立地が少しの戸建住宅と「山中石綿」のプロットへと変わっている。仲と中で記載が異なるが、住所番地から同じ物と判断した。googleマップでは現在も古い工場らしき建物が立地。 資料掲載：名鑑1968、便覧1970・1979・1982、電話帳広告	1968～1982
87	阪南市 尾崎	ユタカ石綿工業(株) 1970年掲載住所 2/2	泉南郡南海町尾崎町761	〒599-0201 大阪府阪南市尾崎町2丁目20-7	3	1970年工場便覧に掲載されていた住所だが、1978年・1990年・2004年住宅地図で■■■■■宅としてプロットされている。同氏名はユタカ石綿の前身と思われる原口石綿工業の代表者氏名と同じである。	1970年
88	阪南市 尾崎	泉州断熱材工業協同組合	阪南、尾崎1052	〒599-0201 大阪府阪南市尾崎町3丁目7	3	1975および1986年電話帳での存在確認。番地が記載されているのは1975年版のみであり、1986年版では番地不明記で電話番号も異なっている。旧番地の尾崎1052が特定できないが、近接番地の1051のある付近を暫定的にプロットしている。	1975
89	阪南市 尾崎	■■■■■	尾崎329	〒599-0201 大阪府阪南市尾崎町4丁目28-11	3	1980年電話帳でのみ確認。1978年住宅地図で「大林石綿」のプロットに併記されていた氏名。1990年住宅地図での該当住所には複数の個人宅が存在しているがこの名前は確認できない。	1980

番号	小地区分類	企業・事業場名(同一のものが複数立地の場合は1/2、2/2、1/3、2/3、3/3の形でナンバリングと母数を付す)	資料掲載住所	現在住所(該当住所がない場合は隣接住所)	現在の状態 1:建物現存 2:別施設へ更新 3:詳細不明もしくは特定できず	備考・考察	資料掲載確認時期 (工場名鑑等や住宅地図の掲載年より)
90	阪南市尾崎	原口石綿工業(株)	泉南郡南海町尾崎401	〒599-0201 大阪府阪南市尾崎町5丁目12-1	2	旧番地である尾崎町401はその後にユタカ石綿が立地していた場所と同一である。資料掲載時期(=操業が確実な時期)とユタカ石綿工業の1970年掲載住所の情報から原口石綿工業からユタカ石綿工業へと社名変更したと考えるのが自然であるが、情報整理のため別個のプロットとしている。電話帳では「ユタカ石綿」は出てこず、尾崎401の住所の「原口石綿工業所」が1967~1975年掲載確認で時期が重複している(電話帳記載の名称の切り替えをしなかったか?)。資料掲載:名鑑1958・1962・1965・1968	1958~1968 (~1975?)
91	阪南市尾崎	ユタカ石綿工業(株)工場所在地 1/2	泉南郡阪南町尾崎町	〒599-0201 大阪府阪南市尾崎町5丁目12-1	2	78年住宅地図での工場がプロットされている場所から特定。90年住宅地図では複数の戸建住宅に変わっており、現在も同様。資料掲載:便覧1970・1973	1970~1978
92	阪南市尾崎	柳川工場(柳川石綿工業所)	泉南郡阪南町尾崎414	〒599-0201 大阪府阪南市尾崎町5丁目12-7	2	電話帳では1967~1991年の掲載を確認。1978年と1990年住宅地図ともに尾崎町414に「柳川工場」、2004年住宅地図には「柳川石綿工業所」がプロットされている。現在は戸建住宅が複数立地。資料掲載:便覧1970・1973	1967~2004
93	阪南市尾崎	南石綿工業(株)(尾崎)		〒599-0201 大阪府阪南市尾崎町5丁目30-7	2	1975年住宅地図より確認。石田の住所に立地の南石綿工業(株)(資料ではこの住所の記載は確認されない)との関係は不明。2001年住宅地図では該当物件は空白であり、現在は福島住民センターの駐車場となっている。1978年住宅地図では「南海アスベスト」1990年住宅地図では「福島石綿工業所」がプロットされている。	1975
94	阪南市尾崎		尾崎276	〒599-0201 大阪府阪南市尾崎町5丁目30-7	3	電話帳の1975~1980年でのみ掲載確認。1978年住宅地図では「南海アスベスト(株)」のすぐ西隣の物件にプロットされているが、75年や90年、01年の住宅地図では別名がプロットされている。	1975~1980
95	阪南市尾崎	南海アスベスト		〒599-0201 大阪府阪南市尾崎町5丁目30-7	2	1978年住宅地図より確認。工場名鑑等には登場しない。2001年住宅地図では該当物件は空白であり、現在は福島住民センターの駐車場となっている。1975年住宅地図では「南石綿工業(株)」、1990年住宅地図では「福島石綿工業所」がプロットされている。	1978
96	阪南市尾崎	福島石綿工業所		〒599-0201 大阪府阪南市尾崎町5丁目30-7	2	1990年住宅地図より確認。工場名鑑等には登場しない。2001年住宅地図では該当物件は空白であり、現在は福島住民センターの駐車場となっている。1975年住宅地図では「南石綿工業(株)」、1978年住宅地図では「南海アスベスト」がプロットされている。	1990
97	阪南市尾崎	東海林石綿	尾崎280	〒599-0201 大阪府阪南市尾崎町5丁目31-16	3	1971~1980年の電話帳掲載でのみ存在を確認。1978、1990年住宅地図では存在を確認できない。旧番地の尾崎280はこの区画と南側のブロック [ ] がプロットされている区画の北側)と広めに当てられていた様子なので正確な物件位置は特定できておらず、暫定的にプロットしている。名前と位置が [ ] との関係が推測できるが詳細は不明。	1971~1980
98	阪南市尾崎	大林石綿工業所	尾崎219	〒599-0201 大阪府阪南市尾崎町5丁目41-5	2	1978年住宅地図での「大林石綿 [ ] プロットより場所を確認。電話帳でも「大林石綿工業所」で1967~86年で掲載確認。工場名鑑等には登場しない。1990年住宅地図では存在しない。現在は和菓子工場(青木松風庵)の敷地の駐車場か?	1967~1986
99	阪南市尾崎	西光アスベスト工業所	阪南市尾崎185	〒599-0201 大阪府阪南市尾崎町185-2	3	厚労省労災認定事業所一覧の掲載より確認(石綿糸、石綿布等の石綿紡織製品の製造工程における作業)。石綿使用時期も不明記で詳細は不明だが、住所 [ ] の住所とほぼ同一。	?
100	阪南市尾崎		尾崎186	〒599-0201 大阪府阪南市尾崎町185-2	2	1971~1980年の電話帳掲載より確認。1978年住宅地図での [ ] プロットから場所を特定。1990年住宅地図ではすでに別の物件となっている。工場施設があったかの詳細は不明。現在は新しい戸建住宅が立地している様子。	1971~1980
101	阪南市尾崎	米崎石綿工業所	泉南郡阪南町下出529-1	〒599-0201 大阪府阪南市尾崎町515	2	電話帳では1967~1991年の掲載確認。78年地図のプロットより特定。90年地図でも存在していたが、現在はそのままの敷地に「家族葬やまと阪南」が立地。資料掲載:名鑑1962・1965・1968、便覧1970・1973・1979・1982・1985・1988	1962~1991
102	阪南市貝掛	三善石綿工業(株)4/4	貝掛63	〒599-0231 大阪府阪南市貝掛63-1?	3	三善石綿工業(株)(1991年には三善ファイバーテック(株))は電話帳でのみ存在が確認されている。電話帳に掲載された住所は4つあり、この住所は1980年掲載時の住所。現在の住所ではシーサイド貝掛マンションの一部(このマンションは1973年築)に該当する住所であり、年代からこの場所に工場があったかとは考えがたいが、暫定的にプロットしている。	1980

番号	小地区分類	企業・事業場名(同一のものが複数立地の場合は1/2、2/2、1/3、2/3、3/3の形でナンバリングと母数を付す)	資料掲載住所	現在住所(該当住所がない場合は隣接住所)	現在の状態 1:建物現存 2:別施設へ更新 3:詳細不明もしくは特定できず	備考・考察	資料掲載確認時期 (工場名鑑等や住宅地図の掲載年より)
103	阪南市黒田	近畿アスベスト(株) (82年から近畿(株)): 現在 2/2	(最終掲載のみ)泉南郡阪南町黒田439 (最終掲載以外)泉南郡阪南町黒田434 (過去の住宅地図プロット)〒599-0202 大阪府阪南市下出494-4	〒599-0203 大阪府阪南市黒田355-1	1	1990年住宅地図の時点でこの位置に移っている(ちなみにこの時点の下出494-4にはジョーシン尾崎店が立地)。そして、現在も会社、施設共に現存。	~1990~現在
104	阪南市黒田	阿形石綿工業所(阿形石綿工業(株))(91年には阿形工業(株))	泉南郡東鳥取町黒田432-3	〒599-0203 大阪府阪南市黒田432-1	1	現在も阿形工業(断熱材取扱)として企業・工場ともに現存。資料での掲載住所は現在に至るまで商店「フードセンターあがた」が立地しており、経営者の住所か。 資料掲載:名鑑1958・1962・1968、便覧1970・1973・1979・1982・1985・1988・1991・1994	1958~2000
105	阪南市黒田	北浦石綿工業所	泉南郡阪南町黒田450 1962年工場名鑑では黒田439	〒599-0203 大阪府阪南市黒田439	2	資料掲載の番地には西川無線(株)(1978、1990住宅地図、現在も)があり、1978年地図で「北浦石綿」がプロットされている位置(黒田439に該当)を工場位置とした。電話帳では番地不明だが黒田で1967~1980年での掲載確認。1990年住宅地図では集合住宅が立地しており現在も同じ。 資料掲載:総覧1954、名鑑1962・1965・1968、便覧1973	1954~1980
106	阪南市黒田	文弁官石綿工業所	大阪府泉南郡東鳥取村黒田471	〒599-0203 大阪府阪南市黒田491	3	代表者: █████。1943年頃の日本石綿製品工業組合氏名表より確認。現住所と地図のプロットは概ねこの辺りという推定。78・90年住宅地図では番地的にはこの辺りだが、現在は存在しない。住宅地図でも個人宅しか見当たらない。	1943
107	阪南市黒田	██████	阪南、黒田531	〒599-0203 大阪府阪南市黒田531-1	1	石田575にあった南石綿工業(株)の代表者。1967~1991年の電話帳掲載を確認。チェックした1978年住宅地図以降現在まで、そのまま███姓の戸建住宅が建てられており、代表者住居のみと考えられるが、資料掲載住所の記録としてプロットしている。	1967~1991 (~現在)
108	阪南市黒田	日東鋳繊維産業株式会社	大阪府泉南郡東鳥取村黒田536	〒599-0203 大阪府阪南市黒田536	3	1947年日本石綿協会員名簿より確認。該当住所には現在屋敷が立地している。1978年および1990年住宅地図ではこの会社の設立者である「██████」宅としてプロットされている。  この会社を源流に持つ株式会社ファニーインターナショナルHPの沿革を参照(2016年12月現在で閲覧できなかったがGoogleクロムのキャッシュより閲覧したもので確実性は不明)すると、大元の石綿紡織業は██████により1918年操業、日東鋳繊維産業は1946年██████より設立、1951年に大正紡績株式会社に変更、1969年に倉敷紡績子会社に譲渡して紡績業を廃業とある。  大正紡績自体は今も操業しており、そちらのHPの沿革では創立年や倉敷紡績の傘下にはいる事などは一致しているが、石綿紡織業や日東鋳繊維のことは触れていない。大阪府産業総覧1954年版の「大正紡績(株)」の記載事項では生産品は「綿糸」のみだが、代表者は同じ「██████」である。また、1962年工場名鑑での大正アスベストの代表者も同姓同名である。	(1918 ~)1946(~ 1951?)
109	阪南市桑畑	阪南石綿工業所(石綿工業所 █████)	桑畑321	〒599-0222 大阪府阪南市桑畑322-1	1?	1978年住宅地図のプロットにて「阪南石綿工業所」の存在確認。電話帳では1975~1980年の掲載確認。1990年住宅地図では「石綿工業所 █████」としてプロットされている。2004年住宅地図には「ソーコ」の記載となり、Googleマップの様子では当時のままの古い波形スレートで建てられた工場らしき建物が立地している。	1975~1990
110	阪南市自然田	日の出アスベスト(株) 1/3	泉南郡阪南町自然田344	〒599-0212 大阪府阪南市自然田344	3	資料によって「日之出」や「日ノ出」の表記や工業所が付く場合などがある。電話帳では1975~1986年の期間でこの住所での掲載。1978年住宅地図ではこの住所で「日の出アスベスト工場 █████」の記載が確認されるので工場立地の場所には間違いない。1990年および2004年住宅地図ではホンテス工業(株)第二製造部がプロットされている。現在もホンテス工業の工場として存在か? 資料掲載: 便覧1982・1985	1975~1986
111	阪南市自然田	ホンテス工業(株)第二製造部		〒599-0212 大阪府阪南市自然田344	1?	1990年住宅地図より確認。 該当と思われる地点には古い工場らしき建物があるがgoogleマップで詳細を確認できず。	1990
112	阪南市自然田	草竹産業(株)	自然田369-3	〒599-0212 大阪府阪南市自然田369-3	1	1986~1991の電話帳での掲載でのみ確認。1990年住宅地図および現在も同じ立地で同じ企業が存在している。厚労省労災認定事業所一覧の情報では石綿取扱期間は1985~2005年。	1985~2005 (~現在)
113	阪南市自然田	東和石綿工業所	東鳥取自然田728	〒599-0212 大阪府阪南市自然田728-5	3	1971年電話帳でのみ存在を確認。1990年住宅地図ではプロットは確認できないが、長屋状の区画になっており、現状のGoogleマップの様子でも古くからの長屋が立地している様子である。	1971

番号	小地区分類	企業・事業場名(同一のものが複数立地の場合には1/2、2/2、1/3、2/3、3/3の形でナンバリングと母数を付す)	資料掲載住所	現在住所(該当住所がない場合は隣接住所)	現在の状態 1:建物現存 2:別施設へ更新 3:詳細不明もしくは特定できず	備考・考察	資料掲載確認時期 (工場名鑑等や住宅地図の掲載年より)
114	阪南市自然田	清水石綿	自然田737	〒599-0212 大阪府阪南市自然田736	3	1975年電話帳でのみ存在を確認。現在はこの番地が存在しないため、近似番地(735、736、739が固まっている付近)を暫定的にプロットしている。1990年住宅地図では存在は確認できず、電話帳掲載のみなので詳細は不明。	1975
115	阪南市自然田	1980~91掲載) 2/2	自然田741-13	〒599-0212 大阪府阪南市自然田741-13	3	1975~91年の電話帳でのみ掲載確認、1980~91年の掲載ではこの住所であり、1990年住宅地図でもこの物件に がプロットされている。現在は戸建住宅が立地している様子だが詳細は不明。	1980~1991
116	阪南市自然田	井田石綿工業所その2 2/2	泉南郡阪南町自然田814	〒599-0212 大阪府阪南市自然田813-17	2	1978年および1990年住宅地図ではこの位置に「井田石綿工業所」がプロットされている。1971~91年の電話帳でもこの住所で掲載されている。2004年には複数の戸建住宅の立地へと変わっており現在も同じ状態にある。	1968~1991
117	阪南市自然田	(株)草竹工業所 1/2	泉南郡阪南町1386-1	〒599-0212 大阪府阪南市自然田1386-1	1	企業、施設ともに現存。電話帳の1986~91ではこの住所で掲載。資料掲載: 総覧1954、名鑑1958・1962・1965・1968、便覧1970・1973・1976・1982・1985・1988・1991・1994	1954~1994(~現在)
118	阪南市自然田	昭和石綿(79年から昭和耐熱株) 1/2	泉南郡阪南町自然田1412	〒599-0212 大阪府阪南市自然田1412	1	現在は(株)エステック(建築資材・断熱材取扱)となっている(その後の社名変更か?)。少なくとも建物は昔から変わっていない様子。資料掲載: 名鑑1958・1962・1965・1968、便覧1970・1973・1979・1982・1985・1988・1991	1958~1991
119	阪南市自然田	マルキ物産株	泉南郡阪南町自然田1415(68年資料)自然田1429(70年資料)自然田1421	〒599-0212 大阪府阪南市自然田1415	1	Googleマップを見る限り、道沿いに新しくはない大きな屋敷が立地しており、その奥に工場建物らしきものがある。これより古い地図では未確認だが、1990年住宅地図ではこの敷地に明確にプロットされている。1967年電話帳では代表者の の名前が掲載されている。また71~80年の電話帳では「マルキ物産(株)」の表記でこの住所で掲載されている。68年資料では「自然田1429」になっているが、78年住宅地図を見る限り、その地点には個人宅や倉庫ばかりで該当するものはない。「自然田1421」は古い地図との同定はまだだが、どちらも現在は戸建住宅が立地。資料掲載: 名鑑1958・1962・1965・1968、便覧1970・1973	1958~1980
120	阪南市自然田	日清石綿工業所倉庫 2/2		〒599-0212 大阪府阪南市自然田1528-2	3	1990年住宅地図での「日清石綿工業所倉庫」のプロットから確認。すぐ南隣は代表者の のプロット。1978年住宅地図では のみプロット。2004年住宅地図では は同じだが、この物件は「ソーコ」とのみ記載されている。Googleマップの様子ではその状態のままと見える。	1990
121	阪南市自然田	日清石綿工業所の代表者)	自然田1569	〒599-0212 大阪府阪南市自然田1569-1	3	1967、1975、1980、1986、1991年の電話帳では日清石綿の住所とは別に同じ名前での住所にてもう一つ掲載されていた。1990年住宅地図では空白物件になっている。現在は新しい戸建住宅に更新されている様子。	1967~1991
122	阪南市自然田	日の出アスベスト 3/3	自然田1571	〒599-0212 大阪府阪南市自然田1571	3	1991年電話帳でのみこの住所での掲載確認。この住所は複数の物件にまたがるが、1990年住宅地図ではその内に 姓のプロットされている物件が2つあり、代表者住所とも考えられるが、工場施設があったかどうかは不明。2004年住宅地図では純粋な「自然田1571」の住所に該当するのはこの物件であり、1990年では「」、2004年では「」がプロットされている。現在も物件の並びは変わっていない。	1991
123	阪南市自然田	日の出アスベスト 2/3	自然田1631	〒599-0212 大阪府阪南市自然田1631	3	「日ノ出石綿工業所」名義で1967~1971年電話帳の記載住所。1990年住宅地図では 宅がプロットされており、現状のGoogleストリートビューでも 姓の戸建住宅が立地している様子。工場施設があったかどうかは不明。	1967~1971
124	阪南市自然田	(株)草竹工業所 旧住所 および草竹武長(草竹工業所の代表者)2/2	泉南郡東鳥取村大字自然田1703	〒599-0212 大阪府阪南市自然田1703	2	1960年日本石綿協会名簿の掲載住所。電話帳でも「草竹工業所(株)」は1967~1980年、代表者の でも1967、1971年においてこの住所で掲載されていた。工場施設が立地していたかどうかは不明。1990年住宅地図では 宅。現在は集合住宅か?	1965
125	阪南市自然田	井田石綿工業所(資料掲載住所) 1/2	泉南郡阪南町自然田1714	〒599-0212 大阪府阪南市自然田1714	3	Googleマップでは古い大きな屋敷が立地している。詳細は不明。『大阪府精密住宅地図 阪南町』(吉田地図株式会社、1990年)では同住所は「」宅。資料掲載: 名鑑1968、便覧1973	1968~1973
126	阪南市自然田	大阪石綿紡織工業組合	自然田1743-1	〒599-0212 大阪府阪南市自然田1742-4	2	1980~91年電話帳および1990年住宅地図で存在を確認。電話帳掲載の住所番地は現在は少し離れた区画に当たっており、住宅地図のプロットからもこの位置が正しい。Googleマップを見る限り、現在は戸建住宅となっている様子。	1980~1991
127	阪南市下出	泉州石綿工業(株)	下出69	〒599-0202 大阪府阪南市下出69	2	1967~1971年電話帳で存在を確認。詳細は不明だが、1990年住宅地図では個人名の戸建物件であり、現在も戸建住宅が立地している。	1967~1971

番号	小地区分類	企業・事業場名(同一のものが複数立地の場合は1/2、2/2、1/3、2/3、3/3の形でナンバリングと母数を付す)	資料掲載住所	現在住所(該当住所が現在ない場合は隣接住所)	現在の状態 1:建物現存 2:別施設へ更新 3:詳細不明もしくは特定できず	備考・考察	資料掲載確認時期 (工場名鑑等や住宅地図の掲載年より)
128	阪南市下出	朝日石綿工業(株) 泉南倉庫	阪南、下出511	〒599-0202 大阪府阪南市下出389-12	3	78年住宅地図により確認。1975年電話帳でも下出511の住所で「朝日石綿工業(株)」が掲載されている。90年時点では西條商店となっている。地図にプロットされていた敷地には現在も工場が倉庫らしい建物も見られる(90年時点と変わらさず?)が、それ以外は複数の戸建住宅が立地。住所は西條商店の位置。	1975~1978
129	阪南市下出	三球石綿工業所		〒599-0202 大阪府阪南市下出418-1	1	三井石綿工業所の78年地図プロットの北の並びで隣接。現在も工場建物は残っている。90年住宅地図で阪南町版では名称は何も記されていないが、泉南市版では工場名がプロットされている。電話帳では1971~91年で掲載確認。	1971~1991
130	阪南市下出	三井石綿工業所その2 2/2		〒599-0202 大阪府阪南市下出422-2	2	『大阪府精密住宅地図 阪南町』(吉田地図株式会社、1978年)でのプロット地点。1990年住宅地図では「岸野繊維」となっている。現在はすでに建物は解体撤去されて空き地状態(googleストリートビュー、2014年12月現在)。	1978
131	阪南市下出	三井織布	下出464	〒599-0202 大阪府阪南市下出422-2	2	1975~1986年の電話帳での「三井織布」の掲載より確認。そこでの掲載の下出464の住所は特定できず、現在住所表記とも異なるが、1978年住宅地図で微妙な漢字違いで「三井織布」に該当すると推測してこの位置にプロットしている。1990年住宅地図では「コンビニエンスストアレモンハウス三井」、現在は「お休処屋久杉」がプロット。	1975~1986
132	阪南市下出	松枝石綿工業所(76年には松枝産業株) 1/2	泉南郡阪南町鳥取中478	〒599-0202 大阪府阪南市下出478	2	電話帳では1967~1975年では「松枝石綿工業所」として住所が「鳥取中418」で掲載されているが、現在この住所が当たっている場所は1978年や1990年地図でも全くの空き地だった場所であるのでこれについては特定できていない。1980~1991年の電話帳では「松枝産業(株)」としてこの「鳥取中478」の住所で掲載されている。『大阪府精密住宅地図 阪南町』(吉田地図株式会社、1978年)では「松枝石綿」と「松枝産業」の二つのプロットを確認できる。そして後者のプロットされている位置は1990年住宅地図でも「松枝産業(株)」が立地しており、この時点での住所設定は鳥取中478だった。現在住所設定では下出の町域となっている。現在はプレハブ倉庫らしき施設が立地。2006年頃に市民の会の林さんより、不動産業となった「松枝産業株式会社」の看板の写真があったが、その場所はどこか? 資料掲載: 便覧1973・1976・1979・1982・1985・1988	1973~1991
133	阪南市下出	近畿アスベスト株(82年から近畿株): 過去の立地 1/2	(最終掲載のみ)泉南郡阪南町黒田439 (最終掲載以外)泉南郡阪南町黒田434 (過去の住宅地図プロット)〒599-0202 大阪府阪南市下出494-4	〒599-0202 大阪府阪南市下出494-4	2	現在は「業務スーパー阪南店」。 ※『大阪府精密住宅地図 阪南町』(吉田地図株式会社、1978年)に照らすと複雑な関係にあり、最終掲載の黒田439には「北浦石綿」がプロットされており、黒田434には「阿形石綿工業」がプロットされている。ここでの住所(現在)は地図のプロット位置に設定した。 資料掲載: 名鑑1958・1962・1968、便覧1970・1973・1979・1982・1985・1988、電話帳広告	1958~1988
134	阪南市下出	西河石綿紡績(紡織)所もしくは西河石綿工業所(阪南)	泉南郡東鳥取町下出531	〒599-0202 大阪府阪南市下出511-4	3	旧番地の設定が変わったのか、1990年住宅地図での下出531は朝日石綿工業(株) 泉南倉庫の跡地に当てられているが、1978年住宅地図で朝日石綿工業(株) 泉南倉庫の近くの「西河」がプロットされている物件と推測し、その位置に設定している。電話帳では代表者の「西河」の名前で、住所は「下出」のみで番地不明だが1967~1986年の掲載を確認。厚労省労災認定事業所では下出531の住所で「西河石綿工業所」として掲載。 ほぼ同名である泉南市男里の工場との関係性も不明だが、大きく住所が異なることからひとまず別個のものとして両方プロットしている。 資料掲載: 名鑑1962・1965・1968	1962~1986
135	阪南市下出	協和石綿製造所	泉南郡東鳥取町下出513	〒599-0202 大阪府阪南市下出513	2	「鳥取石綿工業所」と同じ隣接敷地の立地だったと考えられる。現在は玉井整形外科内科病院の施設の特別養護老人ホーム「玉井泉陽園」が立地。同病院は73年開業であり、その時点には消失していた様子であり、78年地図でも完全に病院の敷地になっている。 資料掲載: 名鑑1962	1962のみ
136	阪南市下出	鳥取石綿工業所	泉南郡東鳥取町下出513-1	〒599-0202 大阪府阪南市下出513	2	「協和石綿製造所」と同じ隣接敷地の立地だったと考えられる。現在は玉井整形外科内科病院の施設の特別養護老人ホーム「玉井泉陽園」が立地。同病院は73年開業であり、その時点には消失していた様子であり、78年地図でも完全に病院の敷地になっている。電話帳では1967年のみ掲載確認。 資料掲載: 名鑑1968	1967~1968
137	阪南市下出	松枝石綿・松枝産業その2 2/2		〒599-0202 大阪府阪南市下出523-18	2	この行の住所(現在)は78年地図で「松枝石綿」がプロットされている地点で、現在は最近新築の複数の戸建住宅が立地。	1973~1988(住宅地図の1978のみ)

番号	小地区分類	企業・事業場名(同一のものが複数立地の場合は1/2、2/2、1/3、2/3、3/3の形でナンバリングと母数を付す)	資料掲載住所	現在住所(該当住所が現在ない場合は隣接住所)	現在の状態 1:建物現存 2:別施設へ更新 3:詳細不明もしくは特定できず	備考・考察	資料掲載確認時期 (工場名鑑等や住宅地図の掲載年より)
138	阪南市下出	尾崎運送(株)	阪南市下出590	〒599-0202 大阪府阪南市下出587-2	3	厚労省労災認定事業所より確認(石綿原綿又は石綿製品の運搬・倉庫内作業)。1978年や1990年住宅地図ではこの場所に「阪南陸運(株)」が立地しており、「尾崎運送(株)」の記載は確認できない。阪南陸運との関係や存在時期については不明。2004年住宅地図では空のプロットになっており、現在は大きめの駐車場スペースとなっている。	?
139	阪南市新町	芙蓉石綿(株)(芙蓉石綿工業所)	泉南郡阪南町新町158-2	〒599-0205 大阪府阪南市新町158-2	2	1990年住宅地図でも存在していた。電話帳では1967~1991年の掲載を確認。現在は複数の戸建住宅が立地。資料掲載:名鑑1962・1965・1968、便覧1970・1973	1962~1991
140	阪南市鳥取	古屋(古家)繊維工業所 1/2	鳥取223-4	〒599-0204 大阪府阪南市鳥取223-16	2	電話帳で「古屋繊維工業所」として1975~1991年の掲載確認の住所。1978年住宅地図で「古家繊維工業所」が立地している。1990年住宅地図では物件の存在はあるが空白、現在は空き地や農地になっている。表記が古屋、古家、古谷の表記が混在しているが、これらは一体のものと考えられる。鳥取1277の住所と関連。	1975~1991
141	阪南市鳥取	三善石綿工業(株)(三善ファイバートック) 1/4	鳥取674-7	〒599-0204 大阪府阪南市鳥取674-7	3	三善石綿工業(株)(1991年には三善ファイバートック(株))は電話帳でのみ存在が確認されている。電話帳に掲載された住所は4つあり、この住所は1986~91年に箱作732の住所と併記されていたもの。1990年住宅地図や現状を見る限り戸建住宅のみなので代表者住所かと思われる。	1986~1991
142	阪南市鳥取	成瀬瓦工業株式会社	阪南町鳥取	〒599-0204 大阪府阪南市鳥取754-64	2	1980年の電話帳掲載より確認。以下の通り、広告欄にてスレートやカラーベストの施工販売を行っている。自社で生産しているかは不明。電話帳では住所番地不明記、1978年や1990年住宅地図をみると鳥取ノ荘駅前にも事務所か代表者宅らしきプロットはあるが、工場や倉庫としてはこの場所のプロットと考えられる。1978年では川を挟んで東側のみで、西側は別の瓦製造の会社だった。1990年では両方とも同社の倉庫となっている。現在は東側はソーラー発電施設、西側は古いスレート施工の倉庫が残っている様子にある。 広告欄:泉州瓦製造販売 三河・淡路・釉薬瓦 スレート屋根材一式 クボタカラーベスト 施工販売 資料掲載:電話帳広告	1980
143	阪南市鳥取	古谷(古家)繊維工業所/古家朝次 2/2	泉南郡南海町鳥取1277	〒599-0204 大阪府阪南市鳥取1292-3	3	工場名鑑資料や電話帳での工業所の夜間連絡先、さらに「 <span style="background-color: black; color: black;">XXXXXXXXXX</span> 」(電話帳で1967~1991年掲載)の住所としても掲載されているのがこの住所である。1978年および1990年住宅地図ではこの位置に「 <span style="background-color: black; color: black;">XXXXXXXXXX</span> 」がプロットされているので、代表者住所の方とも考えられるが、工場施設についての詳細は不明。現在は複数の戸建住宅が立地している様子。 資料掲載:名鑑1958・1962・1965・1968	1958~1991
144	阪南市鳥取中	三和石綿工業所	石田121	〒599-0211 大阪府阪南市鳥取中121	2	『大阪府精密住宅地図 阪南町』(吉田地図株式会社、1978年)では鳥取中121の住所の場所に「三和石綿」とプロットされている。1979年以降に存在が確認される東亜石綿工業所と同住所。電話帳の1967~1971年に「 <span style="background-color: black; color: black;">XXXXXXXXXX</span> 」、1971年に「三和石綿工業所」がどちらも「石田121」の住所で掲載されているが、ちょうど石田と鳥取中の町域の境界線際の位置であり、この場合は区画整理で町域区分がしばしば変わることがあることを加味して、ひとまずこれと同一のものと推測しておく。東亜石綿工業所の方に続く。	1967~1978
145	阪南市鳥取中	東亜石綿工業所	泉南郡阪南町鳥取中121	〒599-0211 大阪府阪南市鳥取中121	2	「三和石綿工業所」の項より続く。この住所には現在は複数の戸建住宅が立地。1990年住宅地図では会社名は記名されず、湖山寿啓宅の敷地として扱われている。1979年頃に三和石綿から切り替わったものと考えていたが、電話帳では1967~1980年に掲載されており、「石田121」の住所として「 <span style="background-color: black; color: black;">XXXXXXXXXX</span> 」や「三和石綿工業所」が同時に掲載されている時期があり、石田121の住所は別の可能性もあるが、確認はできていないので暫定的に同じ住所としておく。先に立地していた「三和石綿」および泉南市男里にあった「三和石綿工業所( <span style="background-color: black; color: black;">XXXXXXXXXX</span> )」は一体の会社か?また阪南市桑畑にあった工場でも「石綿工業 <span style="background-color: black; color: black;">XXXXXXXXXX</span> 」のプロットがあった。 資料掲載:便覧1979・1982・1985	1967~1985
146	阪南市鳥取中	<span style="background-color: black; color: black;">XXXXXXXXXX</span>	鳥取中242	〒599-0211 大阪府阪南市鳥取中242	3	1967~1980年電話帳での掲載確認。1990年住宅地図でもこの住所の物件で同じ名前がプロットされている。現在も昔から戸建物件が立地しているように見える。個人名なので詳細や工場設備の有無については不明。	1967~1980
147	阪南市鳥取中	<span style="background-color: black; color: black;">XXXXXXXXXX</span>	鳥取中274	〒599-0211 大阪府阪南市鳥取中274-2	3	1967~1980年電話帳での掲載確認。1990年住宅地図でもこの住所の物件で同じ名前がプロットされている。現在も昔から戸建物件が立地しているように見える。個人名なので詳細や工場設備の有無については不明。	1967~1980
148	阪南市鳥取中	<span style="background-color: black; color: black;">XXXXXXXXXX</span> 1975掲載) 1/2	鳥取中283	〒599-0211 大阪府阪南市鳥取中283-2	3	電話帳の掲載のみでの確認。1975~91年で掲載されているが、75年版でのみこの住所になっている。1990年住宅地図では関係はないと思われる個人名のプロットしか見当たらない。	1975

番号	小地区分類	企業・事業場名(同一のものが複数立地の場合は1/2、2/2、1/3、2/3、3/3の形でナンバリングと母数を付す)	資料掲載住所	現在住所(該当住所がない場合は隣接住所)	現在の状態 1:建物現存 2:別施設へ更新 3:詳細不明もしくは特定できず	備考・考察	資料掲載確認時期 (工場名鑑等や住宅地図の掲載年より)
149	阪南市鳥取中	日清石綿工業所(91年には日清工業)1/2	阪南市鳥取中469-2	〒599-0211 大阪府阪南市鳥取中469	3	1978、90年住宅地図ともに「日清石綿工業所」でプロットされている。電話帳では代表者の「[ ]」で1967～1991年の掲載確認。該当住所当たりには「天翔工業(工務店か?)」と駐車場か? Googleマップのみでは昔の建物のままかは不明。 資料掲載:名鑑1968、便覧1970・1973・1979・1982・1985・1988・1991・1994	1967～1994
150	阪南市鳥取中	三井石綿工業所1/2	泉南郡阪南町鳥取中713	〒599-0211 大阪府阪南市鳥取中713	2	1979年工場便覧での掲載住所であるが、1978年住宅地図でこの位置に「[ ]」プロットの物件があるので、代表者住所としてこれに該当すると思われる。工場としてはすぐ近くに立地している。現在は協和通商(株)泉南工場の敷地の一部となっている。電話帳では1975～1980年掲載で、そこでの住所は「鳥取中722」となっているが、この場所は特定できずで不明。 資料掲載:便覧1979	1979
151	阪南市鳥取中	東洋産業(有)	阪南市鳥取中713	〒599-0211 大阪府阪南市鳥取中713	2	厚労省労災認定事業所一覧の掲載より確認。石綿使用時期も不明記で詳細は不明だが、住所は三井石綿工業所の資料掲載住所と同一。	?
152	阪南市鳥取中	武輪石綿工業所	鳥取中751	〒599-0211 大阪府阪南市鳥取中715	3	1971年電話帳でのみ掲載確認。後に登場する内田石綿と同一住所。それとの関係や詳細は不明。	1971
153	阪南市鳥取中	内田石綿	鳥取中751	〒599-0211 大阪府阪南市鳥取中715	3	工場名鑑等には登場しない。90年住宅地図と1980～91年電話帳で確認された。78年住宅地図では「工場」としてしか記載されていない。2004年住宅地図では「阿部織布」となっている。現在も古い工場建物の立地が確認できるが詳細は不明。なお過去の住所「鳥取中751」に該当する場所は現在、鳥取中715の番地が当てられている(過去と現在の住所の違いは入力ミスではない)。	1980～1991
154	阪南市鳥取中	三笠石綿工業(株)	鳥取中751	〒599-0211 大阪府阪南市鳥取中715	3	1975～1986年の電話帳でのみ存在を確認。掲載住所は武輪石綿、内田石綿と同一住所である。1990年住宅地図では「内田石綿」のプロットしか確認できない。少なくとも三笠石綿と内田石綿の同時掲載時の電話番号は異なっている。三者とも電話帳と住宅地図での情報のみなので関係性などの詳細は不明。	1975～1986
155	阪南市鳥取中	南石綿(鳥取中)		〒599-0211 大阪府阪南市鳥取中715	3	泉南市版1990年住宅地図でのみ、内田石綿の北隣の位置にプロット(阪南市版1990年住宅地図では「倉庫」プロット)。1978年住宅地図では内田石綿等の敷地と一体の1つの物件で「工場」のみプロット、2004年住宅地図でも一体で「阿部織布」となっている。地図情報のみなので他の「南石綿」との関係は不明。	1990
156	阪南市鳥取中	(株)不二アスベスト工業所 1/3	鳥取中745	〒599-0211 大阪府阪南市鳥取中745-1	1	1975年や1978年、泉南市版の1990年の住宅地図で「(株)不二アスベスト工業所 [ ]」のプロットで確認。電話帳では代表者と思われる「[ ]」の名前、「鳥取中745」の住所で1975～1980年の掲載を確認。「不二アスベスト工業所」の名前でも同じ住所と電話番号で1975～1991年の掲載を確認。泉南市版の1990年住宅地図では不二工業(株)。現在は(株)フジテック。 泉南市版の1990年住宅地図では川を挟んだ泉南市男里側にも「(株)不二アスベスト工業所」がプロットされている。さらに泉南市榊井(当時は鳴滝)にも「(株)不二アスベスト工業所」のプロットを確認。	1975～1991 (～現在?)
157	阪南市鳥取中	光和石綿工業所(光和工業株)	泉南郡阪南町鳥取中768	〒599-0211 大阪府阪南市鳥取中768	1	1990年住宅地図では光和工業(株)でプロットされている。電話帳でも1975～1991年での掲載確認。現在は自動車修理工場「インツェクスポート」となっているが、工場建物はそのまま考えられる。 資料掲載:便覧1979・1982・1985	1975～1991
158	阪南市鳥取中	日本リンベツ工事(株)	鳥取中768	〒599-0211 大阪府阪南市鳥取中768	3	1967～1971年の電話帳でのみ確認。日本バルカー工業の子会社であり、その泉南地域の支社に当たるか? 住所が後の光和石綿工業所と同一であり、1975年住宅地図ではすでに光和石綿である。存在確認時期から、日本リンベツ工事(株)から光和石綿に変わったものと考えられる。	1967～1971
159	阪南市箱作	三善石綿工業(株)(三善ファイバーテック) 2/4	箱作732-1	〒599-0232 大阪府阪南市箱作732-1	1	三善石綿工業(株)(1991年には三善ファイバーテック(株))は電話帳でのみ存在が確認されている。電話帳に掲載された住所は4つあり、この住所は1986～91年に鳥取674の住所と併記されていたもの。1990年住宅地図でも「三善ファイバーテック(株)」がプロットされており、現在も「三善ファイバーテック本社工場」が立地している。	1986～現在
160	阪南市箱作	三善石綿工業(株) 3/4	箱作1117	〒599-0232 大阪府阪南市箱作1117	2	三善石綿工業(株)(1991年には三善ファイバーテック(株))は電話帳でのみ存在が確認されている。電話帳に掲載された住所は4つあり、この住所は1975年掲載時の住所。1990年住宅地図ではマンションとなっており、現在も同様。	1975
161	阪南市箱作	肥田石綿加工所	阪南、箱作2232-2	〒599-0232 大阪府阪南市箱作2225	2	1986～1991年の電話帳で存在を確認。1990年住宅地図でこの該当住所にプロットされている「肥田工場」が該当すると思われる。2004年住宅地図ではすでに物件自体存在せず、現在は空き地の様子で掲載住所も存在しない。	1986～1991

番号	小地区分類	企業・事業場名(同一のものが複数立地の場合は1/2、2/2、1/3、2/3、3/3の形でナンバリングと母数を付す)	資料掲載住所	現在住所(該当住所がない場合は隣接住所)	現在の状態 1:建物現存 2:別施設へ更新 3:詳細不明もしくは特定できず	備考・考察	資料掲載確認時期 (工場名鑑等や住宅地図の掲載年より)
162	阪南市舞	大正アスベスト株式会社	泉南郡南海町貝掛70 1960年日本石綿協会員名簿では大阪府泉南郡南海町波有手いずれにしても現在の阪南市内	現在の阪南市舞2丁目9～10辺り?	3	日本石綿協会員名簿では1960年に登場するのみで、工場名鑑も1962年みの掲載で、ほとんど過去の資料に登場しない存在だが、同社で働いていたという畠山重信氏の話では当時は同地域で大きな会社であり、工場2つで労働者は100名ほど、JISマークも有していたという(永尾俊彦『国家と石綿』現代書館、2016年、66～67ページ)。1978年住宅地図時点で存在は確認できない。現状、旧番地の貝掛70を明確に特定できないが、1990年住宅地図で貝掛の70～80台の地区付近ということで概ねの位置でプロットしている。なお現在は町域が変化しており、舞2丁目9～15に該当する地域は以前は貝掛だった。 1932年開設の摂津アスベスト株式会社保温工部部を源流とする工部部を継承した会社は現在も大正泰熱株式会社として存続。会社沿革によると1959年に摂津アスベストを合併して大正アスベストの工部部を開設し、1964年より大正アスベスト工事株式会社開設、1988年より現在の社名、1992年より本社は以下の住所に移転。 〒595-0814 大阪府泉北郡志岡町新浜2-6-2 会社HP: <a href="http://www.taishotainetsu.com/index.html">http://www.taishotainetsu.com/index.html</a> 1962年工場名鑑情報の代表者は日東紡織産産株式会社(後の大正紡績?)の創設者と同人物であり、両会社の関係は? 資料掲載: 名鑑1962	1960～1962
163	阪南市山中溪	山東石綿工業所→1973年には阪和アスベスト	泉南郡阪南町山中溪1291-4	〒599-0214 大阪府阪南市山中溪345-24	3	掲載年代、ほぼ同じ住所と規模、代表者名の電話帳掲載の情報を統合すると、遅くとも1962～1970年頃までは山東石綿として、そして1973年には「阪和アスベスト」になり、1982年までは操業していたものと考えられる。 電話帳では代表者の「[ ]」で1967～1980年に掲載、67と71年では番地不明だが75、80年では山中溪1291。1978年住宅地図では「[ ]」宅すぐ南東隣の位置(87年では空白になっていた場所)に「(有)阪和アスベスト」のプロット確認。1990年には複数の戸建住宅へと変わっており、現在もその状態の様子。 厚労省の労災認定事業所一覧では「(有)阪和アスベスト」の住所は「紀の川市貴志川町北34」、1979年掲載の本社住所は「和歌山市北田辺町25」 資料掲載: 名鑑1962・1965・1968、便覧1970・1973・1979・1982	1962～1982
164	阪南市山中溪	仲谷石綿工業(株)山中工場 2/2	山中518もしくは山中溪578	〒599-0214 大阪府阪南市山中溪519	1?	1967～75年電話帳に信達牧野のとは別に「仲谷石綿工業(株) 山中工場」として掲載されている。1975年電話帳のみ住所が山中溪578となっているが、1978年および1990年住宅地図では泉南市信達牧野と同時にこの住所にも立地していることから工場の場所には変化はない。2004年住宅地図では「ナカタニ」と「[ ]」がプロットされている。Googleマップでは現在も古い工場建屋らしきものが立地している。	1967～1990
<b>番地不明記・未確認分: 確認数24</b>							
165	泉南市(地区不明)	櫻原工業所			3	1970年代頃、泉南市内で操業、経営者: 櫻原茂昭氏(永尾、2016、25～26ページ)。	1970年代
166	泉南市男里	阪南工業所	男里1411		3	1986年の電話帳の掲載でのみ確認。厚労省労災認定事業所一覧でも登場するが住所情報は同じで、旧番地を特定できておらず場所は不明。	1986
167	泉南市男里	[ ]	男里1548		3	1975、1980年電話帳の掲載でのみ確認。旧番地を特定できておらず場所は不明。	1975～1980
168	泉南市新家	(有)北浦瓦製作所	泉南市新家		3	石綿紡績の混合作業他。厚労省労災認定事業所に掲載、石綿使用時期や番地は不明記。1975年および1990年住宅地図で新家地区においては確認できなかった。	?
169	泉南市信達?	関西石綿工業有限公司	大阪府泉南郡信達町		3	代表取締役: [ ]。1943年頃の日本石綿製品工業組合員氏名表より確認。番地不明記のため場所を特定できない。	1943
170	泉南市信達?	阪南石綿工業有限公司	大阪府泉南郡信達町		3	代表取締役: [ ]。1943年頃の日本石綿製品工業組合員氏名表より確認。番地不明記のため場所を特定できないが、その後の松山石綿と代表者氏名が同じことからその前身と考えられる。	1943
171	泉南市信達牧野	浅羽岩綿加工株式会社	大阪府泉南郡信達町牧野		3	1947年日本石綿協会員名簿の掲載のみ。番地不明記のため場所を特定できない。	1947
172	泉南市信達牧野	稲留石綿工業所	大阪府泉南郡信達町牧野		3	1947年日本石綿協会員名簿の掲載のみ。番地不明記のため場所を特定できない。	1947
173	泉南市信達牧野	大阪石綿工業(株)	泉南郡信達町牧野	泉南市信達牧野内?	3	番地不明記のため特定できず 資料掲載: 総覧1954	1954のみ
174	泉南市信達牧野	北村石綿工業所	泉南郡信達町牧野	泉南市信達牧野内?	3	番地不明記のため特定できず 資料掲載: 総覧1954	1954のみ

番号	小地区分類	企業・事業場名(同一のものが複数立地の場合は1/2、2/2、1/3、2/3、3/3の形でナンバリングと母数を付す)	資料掲載住所	現在住所(該当住所がない場合は隣接住所)	現在の状態 1:建物現存 2:別施設へ更新 3:詳細不明もしくは特定できず	備考・考察	資料掲載確認時期 (工場名鑑等や住宅地図の掲載年より)
175	泉南市 信達牧野	日本石綿 信達工場	泉南郡信達町牧野		3	1954年資料でのみ存在を確認。番地不明記のため特定できず。 資料掲載：総覧1954	1954のみ
176	泉南市 信達牧野	合資会社弥栄石綿工業所 (元、柚岡石綿紡毛工場)	大阪府泉南郡信達町牧野		3	代表取締役：[ ]。1943年頃の日本石綿製品工業組合員氏名表より確認。番地不明記のため場所を特定できない。1921年創業との話(永尾、2016、15ページ)。 [ ]	(1921~)1943
177	泉南市 信達牧野	ユオカアスベスト	泉南郡泉南町信達牧野		3	番地不明記のため特定できず。代表者 [ ] 資料掲載：名鑑1962	1962のみ
178	泉南市 樽井	東邦石綿工業株式会社	大阪府泉南郡樽井町2390		3	代表取締役：[ ]。1943年頃の日本石綿製品工業組合員氏名表および1947年日本石綿協会員名簿より確認。90年住宅地図では旧番地を特定できず。	1943~1947
179	泉南市 樽井	吉河石綿(個人名)	泉南市樽井		3	石綿糸、石綿布等の石綿紡織製品の製造工程における作業。厚労省労災認定事業所に掲載、石綿使用時期や番地は不明記。個人名でフルネームがわからないという場合は、住宅地図では特定が困難。	?
180	阪南市 (地区不明)	井上石綿工業所			3	原告の井上國雄氏が1963~1967年、阪南市で経営、その後泉佐野市に移転(永尾、2016、159ページ)。	1963~1967
181	阪南市 (地区不明)	ミツイ	阪南市		3	石綿紡績品のリング工。厚労省労災認定事業所に掲載、石綿使用時期や町名・番地は不明記。	
182	阪南市 和泉鳥取	山原燃糸工業所	阪南市和泉鳥取山中		3	石綿糸、石綿布等の石綿紡織製品の製造工程における作業。厚労省労災認定事業所に掲載、石綿使用時期や番地は不明記。1990年住宅地図で和泉鳥取地区においては確認できなかった。	?
183	阪南市 尾崎	泉州石綿工業協同組合	阪南、尾崎		3	1975~1980年の電話帳での掲載確認。番地不明記のため場所の特定ができない。	1975~1980
184	阪南市 尾崎	㈱マツダオートイズミ	阪南市尾崎		3	自動車の整備や修理作業での石綿取扱。厚労省労災認定事業所に掲載、石綿使用時期や番地は不明記。	?
185	阪南市 尾崎	村上石綿	尾崎427		3	1980~1991年の電話帳でのみ存在を確認。旧番地を特定できておらず場所は不明。	1980~1991
186	阪南市 下出	濱野石綿工業所			3	原告の岡田さん親子が1950年代に職住していた。労働者は10人規模(永尾、2016、48~49ページ)。	1950年代
187	阪南市 鳥取	[ ]	南海、鳥取		3	1967~1971年の電話帳での掲載確認。番地不明記のため場所の特定ができない。	1967~1971
188	阪南市 鳥取中	金本石綿工業所	阪南、鳥取中115		3	1967年と1975年の電話帳でのみ登場。現在この住所はなく、過去の位置が特定できていない。	1967~1975

出所：以下の資料を元に作成。

①大阪府・大阪通商産業省・大阪労働基準局監修『大阪府産業総覧』1954年、②大阪府『大阪府工場名鑑』1958・1962・1965・1968年版、③大阪府『大阪府工場要覧』1962・1966・1969年版、④大阪府『大阪府工場便覧』1970・1973・1976・1979・1982・1985・1988・1991・1994年版、⑤『石綿製品工業組合氏名表』1943年、⑥『日本石綿協会員名簿』1947・1954・1960・1967・1970・1974・2000年、⑦『大阪府職業別電話番号簿 南部編』近畿電気通信局、1967年1月現在・1971年2月現在、⑧『大阪府職業別電話帳 泉州版』日本電信電話株式会社・近畿電気通信局、1975年11月現在・1980年4月現在、⑨『大阪府電話帳タウンページ・職業別 大阪府泉州版』日本電信電話関西電話帳事業部、1986年4月現在・1991年1月現在、⑩厚労省が毎年公表する「石綿ばく露作業による労災認定等事業場一覧表」、⑪『精密住宅地図 大阪府泉南市』吉田地図、1979・1980・1989年版、⑫『精密住宅地図 大阪府泉南郡阪南町』吉田地図、1978・1990年版、⑬『ゼンリン住宅地図 大阪府泉南市』ゼンリン、2001年版、⑭『ゼンリン住宅地図 大阪府阪南市』ゼンリン、2004年版、⑮永尾俊彦『国家と石綿』現代書館、2016年。

※ディスカッションペーパーの添付資料とするに当たり、個人名については特に住宅地図や電話帳から抽出している場合も多く、番地情報から地図上のこの物件ではないかという推測の域を出ない内容も含まれるため、基本的に個人名の多くにマスクングをかけている(個人事業主で氏名のみはマスクングをかけているが、屋号内にフルネームが入っている場合や、他の資料やヒヤリングによって原告被害者等の関係者であることが明確に判明している場合は除いている)。